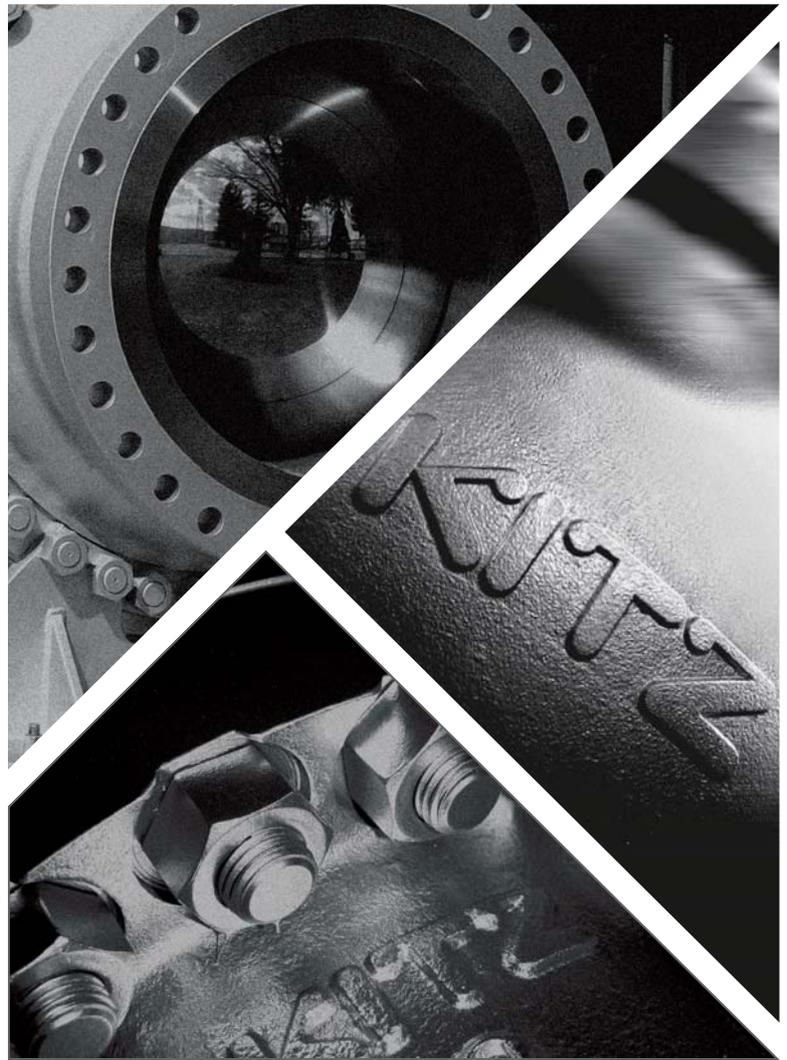


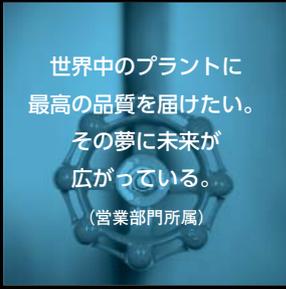
KITZ



Corporate Report 2016

コーポレイトレポート

株式会社 **キッツ**



世界中のプラントに
最高の品質を届けたい。
その夢に未来が
広がっている。
(営業部門所属)

今日に貢献する。 明日を創造する。

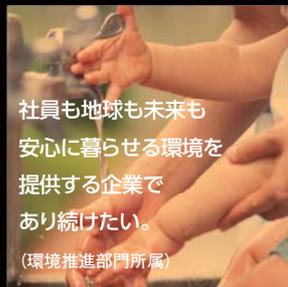
どこでも安心して水を使うことができる。
石油・ガスが絶え間なく供給される。
クリーンな環境で暮らすことができる。
キッツグループは、水や空気、石油、ガスなど
流体をコントロールする「バルブ」の製造・販売を通して、
私達の暮らしや産業に欠かすことのできないライフラインを支え、
今日のゆたかな社会に貢献しています。
さらに、流体制御のプロフェッショナルとして、
お客様の期待を超える商品・サービスで
そのフィールドと可能性を世界に広げ、
明日のゆたかな社会を創造していきたいと考えています。



世界の人々に
信頼される企業として
手本になりたい。
(営業部門所属)



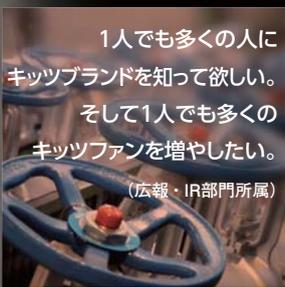
キッツグループの
一番の財産は
そこで働く社員である—
そういう会社であり続けたい。
(人事部門所属)



社員も地球も未来も
安心して暮らせる環境を
提供する企業で
あり続けたい。
(環境推進部門所属)



匠の技と新技術を
詰め込んだバルブが、
気づかないところで
今日もライフラインを
支えている。
(技術部門所属)



1人でも多くの人に
キッツブランドを知って欲しい。
そして1人でも多くの
キッツファンを増やしたい。
(広報・IR部門所属)



日々進化する
半導体業界において
不可欠な企業で
あり続けたい。
(グループ会社所属)



Contents

Page 03

キッツグループの価値創造プロセス

- 05 キッツグループの成長の軌跡
- 07 財務・非財務情報ハイライト

Page 09

ステークホルダーの皆様へ

- 09 社長メッセージ
- 13 財務担当役員メッセージ



Page 33

人財の力

- 33 人事担当役員メッセージ
- 35 若手社員が語るキッツ

Page 37

キッツグループのESG

- 38 経営体制
- 41 コーポレート・ガバナンス
内部統制システム／
コンプライアンスの推進及び
リスクマネジメント
- 44 環境活動
- 47 ステークホルダーとの対話
- 49 社会貢献活動

編集方針

株主・投資家をはじめとするステークホルダーの皆様へ、キッツグループの持続的な成長に向けた取り組みをお伝えするため、コーポレートレポート2016を発行しました。国際統合報告評議会(IIRC)が提示するフレームワークを参考に、短・中・長期の価値創造に関する報告を中心に構成しています。

Page 51

データ編

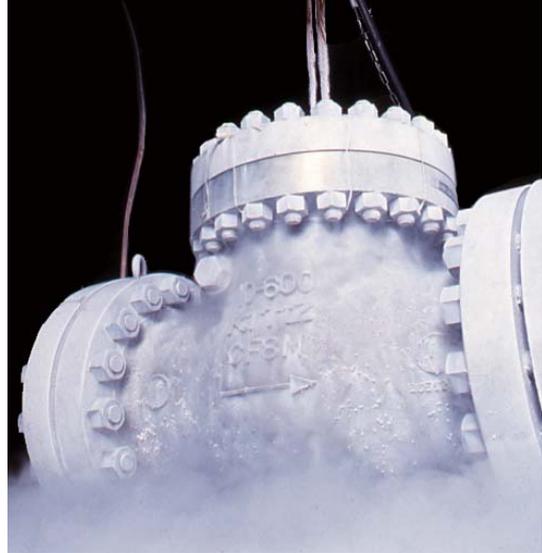
- 51 主要財務データ
- 57 グループネットワーク
- 61 主要工場許認可一覧
- 62 会社概要／株式情報

ウェブサイト

キッツの詳細はウェブサイトからご覧いただけます。

<http://www.kitz.co.jp/>

<http://www.kitz.com/>



ステークホルダーの皆様へ

事業の概要と戦略

人財の力

キッツグループのESG

データ編

キッツグループの価値創造プロセス

キッツは、健全で透明性の高い経営のもと、グループの強みを活かしたバルブの製造・販売を通して、持続的な企業価値の向上を目指しています。それにより、株主、投資家の皆様をはじめ、お客様、ビジネスパートナー、社員、社会に対してさまざまな形で寄与し、ゆたかな社会づくりに貢献してまいりたいと考えています。

キッツグループの強み

価値創造プロセス



持続的成長を実現する
経営戦略

P9~14

流体制御のプロとして
価値を創出する
バルブ事業

P17~31

KITZ

キッツ宣言

KITZ' Statement of Corporate Mission

キッツは、
創造的かつ質の高い商品・サービスで
企業価値の持続的な向上を目指し、
ゆたかな社会づくりに貢献します。

*To contribute to the global prosperity,
KITZ is dedicated to continually enriching its corporate value
by offering originality and quality
in all products and services.*

行動指針

Action Guide

Do it **KITZ** Way

- Do it True (誠実・真実)
- Do it Now (スピード・タイムリー)
- Do it New (創造力・チャレンジ)

創出価値

健全で透明性の高い
経営を実現する
コーポレート・ガバナンス

P37~50

- 水やエネルギーなどの
安定供給を支え、
安心して暮らせる環境を創造

- 顧客・サプライヤーの信頼、
地域社会との共生

- グローバル人財の育成と
高いモチベーションを保てる
企業風土の醸成

- 環境負荷を抑えた事業活動と
環境マネジメント体制の強化

- 持続的な株主価値の向上

活力ある
企業風土を醸成する
人財育成

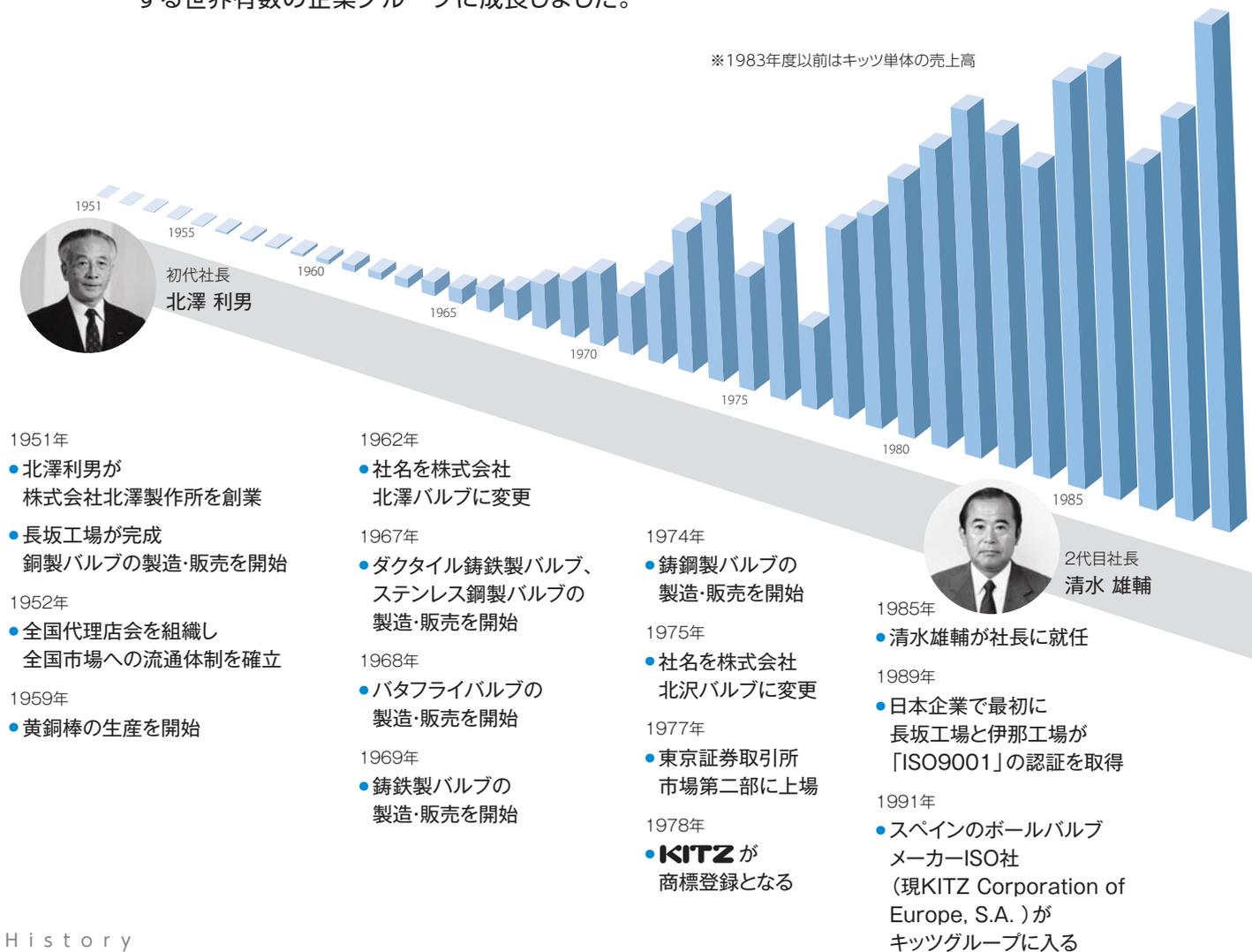
P33~36



キッツグループの成長の軌跡

1951年、日本が敗戦の混乱期から高度経済成長時代へと移りつつある中、北澤製作所（現キッツ）が創業しました。創業者 北澤利男の理念により、素材からの一貫生産を基本に、鋳造から加工・組立・検査・出荷など全ての工程を社内で行い、さらに、きめ細かい販売サービスやアフターフォローをお客様に提供する体制を築いてまいりました。こうした「より良い品質」へのこだわりが今日まで脈々と受け継がれ、私達キッツグループの源流となっています。

現在では、総合バルブメーカーとして、あらゆるフィールドに多彩な商品を提供する世界有数の企業グループに成長しました。



History



1951年
創業当時の長坂工場。社員12人、企業というより町工場というにふさわしい門出であった。



1962年
我が国で初めて黄銅鍛造バルブFH、FSの製造・販売を開始。



1980年
青銅製バルブのハンドルデザインを一新、人間工学の観点から握りやすさを追求した「菊ハンドル」を採用。



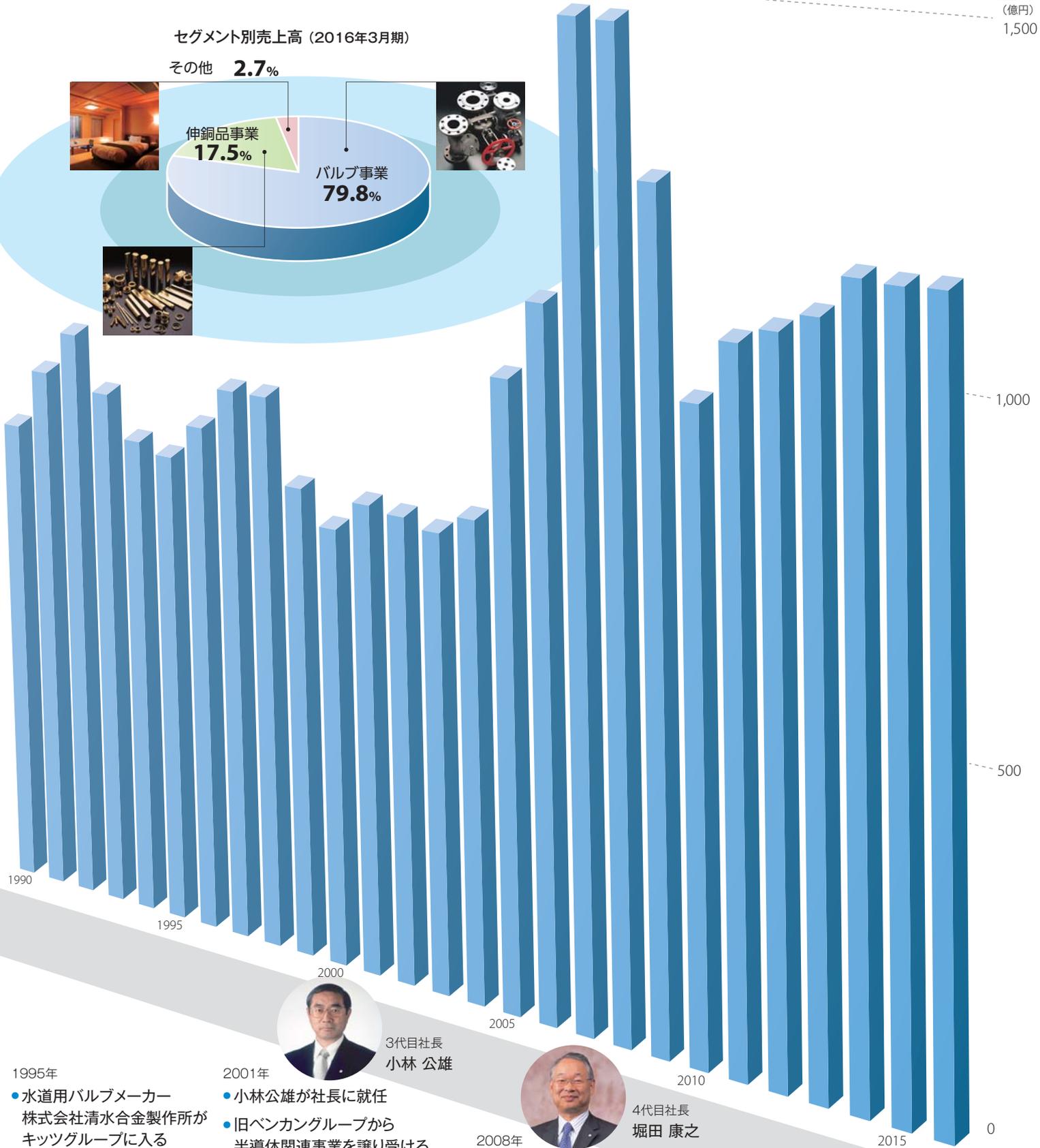
1984年
東京証券取引所市場第一部に上場。

セグメント別売上高 (2016年3月期)

その他 2.7%

伸銅品事業 17.5%

バルブ事業 79.8%



1995年
 ●水道用バルブメーカー株式会社清水合金製作所がキッツグループに入る

2001年
 ●小林公雄が社長に就任
 ●旧ベンカングループから半導体関連事業を譲り受ける



3代目社長
小林 公雄

2008年
 ●堀田康之が社長に就任



4代目社長
堀田 康之

2009年
 ●ドイツのボールバルブメーカー Perrin GmbHがキッツグループに入る

2015年
 ●インドの工業用バルブメーカー Micro Pneumatics Pvt. Ltd. がキッツグループに入る
 ●ブラジルの工業用ボールバルブメーカー Metalúrgica Golden Art's Ltda.がキッツグループに入る



1992年
 社名を株式会社キッツに変更、千葉・幕張新都心に本社屋を竣工・移転。



2004年
 東洋バルブ株式会社がキッツグループに入る。

財務・非財務情報ハイライト

財務情報

31.7%

海外売上高比率



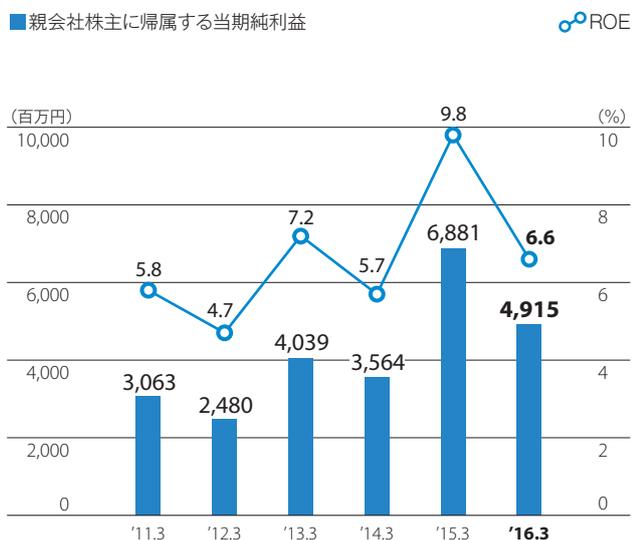
72億円

営業利益



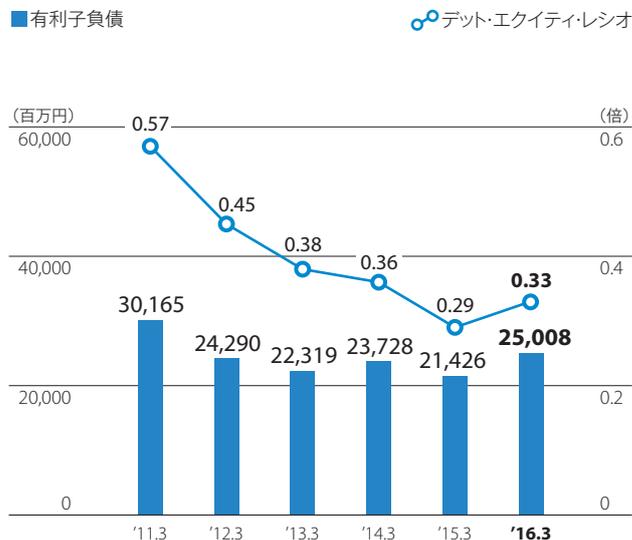
6.6%

ROE



250億円

有利子負債

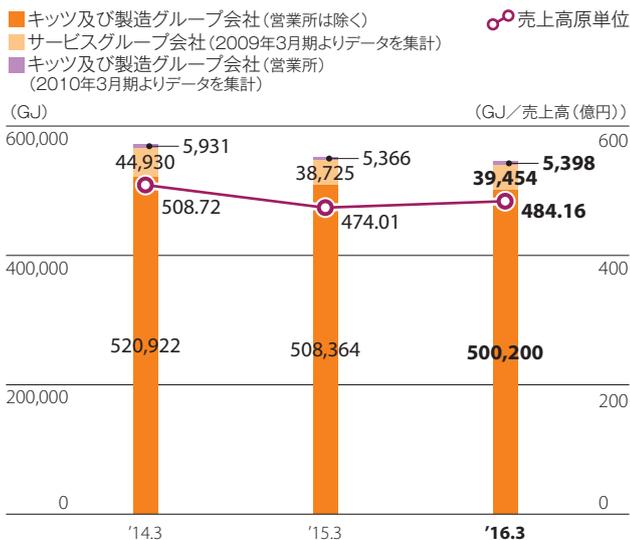


※「企業結合に関する会計基準」等の改正に伴い、「当期純利益」の2015年4月1日以降の表記は、「親会社株主に帰属する当期純利益」となっています。本ページ以降の2015年3月期以前の表記についても、「親会社株主に帰属する当期純利益」で統一しています。

非財務情報

545,052_{GJ}

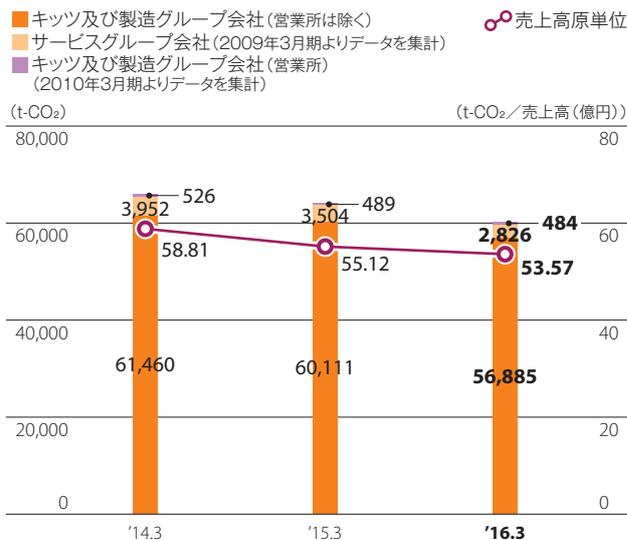
エネルギー消費量



※売上高原単位はキッツ及び国内グループ会社 (営業所は除く)

60,195_{t-CO₂}

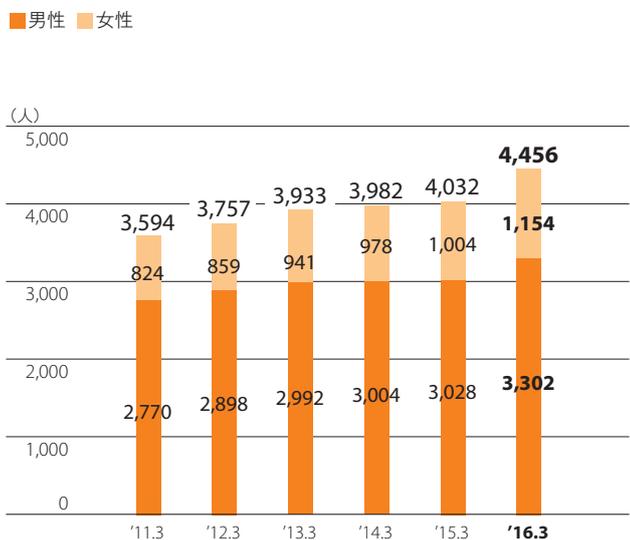
CO₂排出量



※売上高原単位はキッツ及び国内グループ会社 (営業所は除く)

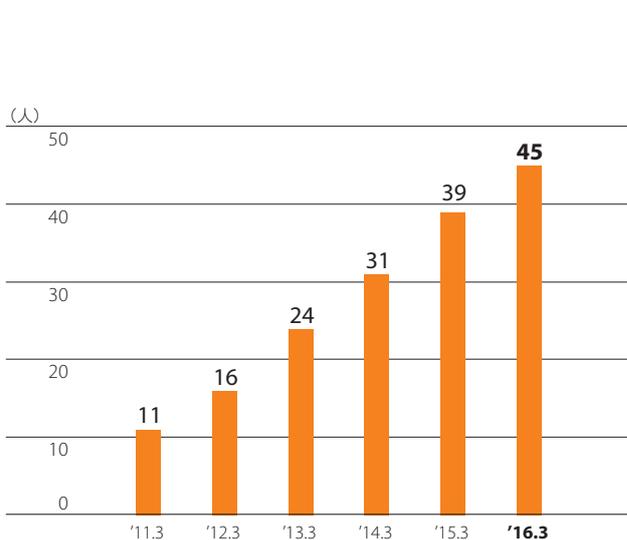
4,456_人

社員数 (連結)



45_人

育児休暇取得延べ人数 (キッツ単体累計)



社長メッセージ



グループの総力を結集して
企業価値のさらなる向上を目指します。

堀田 康之
代表取締役社長

当期(2016年3月期)の連結業績の概況

当期の連結売上高は、前期比2億42百万円増の1,172億78百万円と増収を確保することができました。

バルブ事業は、前期比34億27百万円増の935億79百万円となりました。国内市場では、建築設備向けにおける流通在庫調整の影響はありましたが、半導体製造設備向けや工業用フィルターが好調に推移しました。海外市場においても、為替の円安効果の他、新たにインドの子会社(Micro Pneumatics Pvt. Ltd.)の売上も加わり増収となりました。

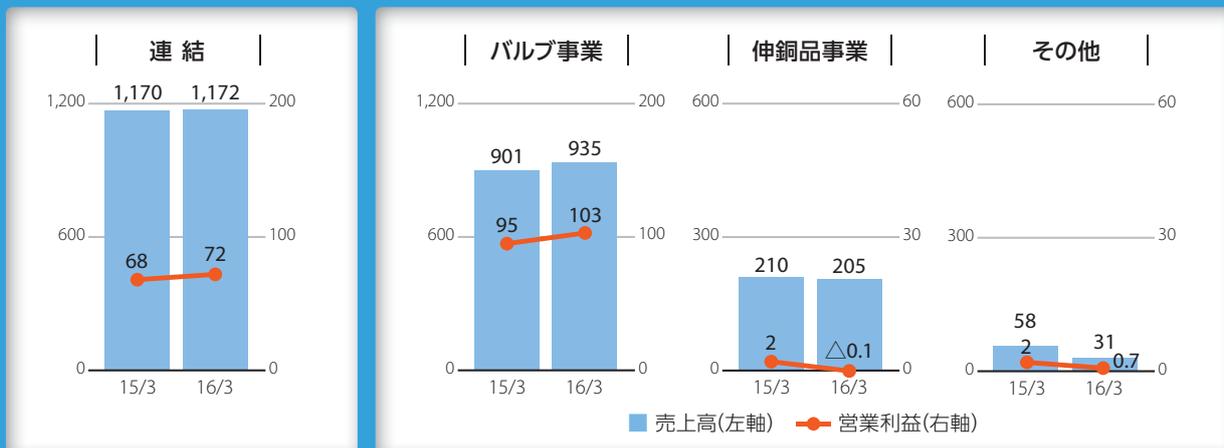
伸銅品事業は、黄銅棒の販売価格に影響する材料市況が期を通じて下落したことにより4億63百万円の減収となりました。前期中におけるフィットネス事業の連結離脱に伴

い、その他(サービス関連の事業)が27億21百万円の減収となりましたが、バルブ事業の売上増加によりその減収分を補い、連結合計では前期実績を上回ることができました。

営業利益については、バルブ事業で、半導体製造設備向けでの増収や生産コスト削減の効果があり、システム開発に係るソフトウェア関連費用やM&A関連費用などの一般管理コストが増加したものの、8億77百万円増加しました。一方、伸銅品事業では、銅相場の影響により、2億65百万円の減益、その他(サービス関連の事業)も、前期中におけるフィットネス事業の連結離脱により前期比1億56百万円の減益となりましたが、バルブ事業における増益でカバーしたことにより、連結営業利益は前期比3億58百万円増の72億45百万円と増益を確保しました。

セグメント別売上高・営業利益

(単位：億円)



第2期中期経営計画の総括

前期比では増収増益を確保したものの、第2期中期経営計画(2013年度～2015年度)に対しては、遺憾ながら総じて計画未達で終了しました。

最終年度で比較すると、売上高は計画比△257億円(△18.0%)、営業利益は△43億円(△37.5%)となりました。主力であるバルブ事業の売上が計画に対して△178億円(△16.0%)、営業利益は△35億円(△25.6%)と大きく未達となったことが影響しています。

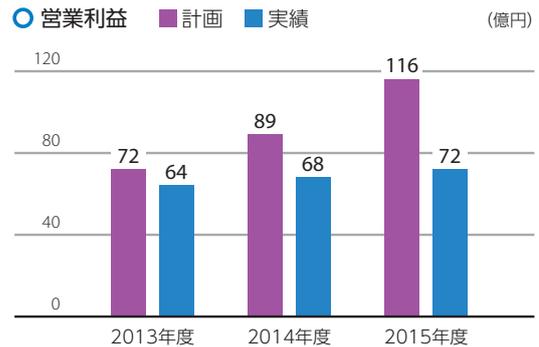
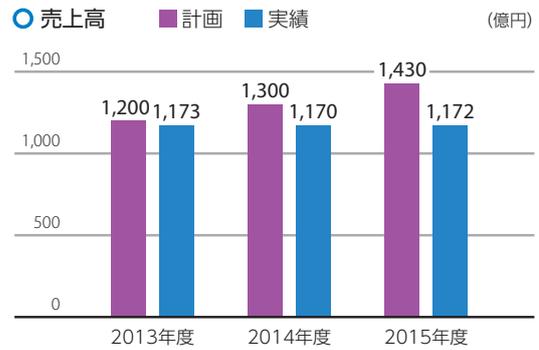
バルブ事業においては、3年前の計画策定時に想定したほどの実需の回復には至りませんでした。国内の建築設備向けについては、人手不足を主要因として公共工事の入札不調が相次いだ他、着工した物件でもバルブの納入時期が後ろ倒しとなりました。海外では、中国の経済成長率の鈍化の影響が、グローバルレベルでの景気低迷、競争激化及び価格低下を招き、また、原油価格の急落により、エネルギー関連企業の設備投資が大幅に減少するなど、厳しい状況で推移しました。

中長期の成長への布石

数値目標については未達となりましたが、キッツウェルネスの株式及びキッツジーアンドアイの保険代理業を外部に売却する一方、Micro Pneumatics Pvt. Ltd.(インド)、Metalúrgica Golden Art's Ltda.(ブラジル)及び北東技研工業を買収するなど、事業再編を積極的に推進しました。また、GIVA Group(イタリア)や東亜バルブエンジニアリング株式会社(東証第二部)とのアライアンスも進めました。さらに、国内工場において材質別生産体制を確立した他、東京支社(営業部門)の千葉市美浜区から東京都中央区日本橋への移転による機能強化も図ることができました。新規分野では水素ステーション用超高压ボールバルブが注目を集め、さらには、陸上養殖プラント市場への参入に向けた準備を進めるなど、中長期の成長への布石は打つことができたと考えています。

第2期中期経営計画期間の売上高と営業利益

注) グラフ及び表の計画値は2013年に策定した第2期中期経営計画策定時の数値



○ セグメント別売上高 (百万円)

	2015年度計画	2015年度実績
バルブ事業	111,400	93,579
伸銅品事業	21,700	20,557
その他	9,900	3,141
合計	143,000	117,278

○ セグメント別営業利益 (百万円)

	2015年度計画	2015年度実績
バルブ事業	13,950	10,384
伸銅品事業	550	△16
その他	400	75
調整額	△3,300	△3,197
合計	11,600	7,245

第3期中期経営計画

第2期中期経営計画の実績及び市場環境の変化を踏まえ、新たに第3期中期経営計画(2016年度～2018年度)を策定しました。中国・新興国経済の景気停滞は、単年では終わらず長期化すると想定しており、景気拡大による売上拡大はあまり多くを期待できません。

従って、新製品開発や他メーカーとのアライアンスによりラインナップを拡充するとともに、M&Aにも積極的に取り組み、新規顧客及び新規市場を開拓していくことを目指します。

また、株主還元の充実として、自己株式の取得にも積極的に取り組んでまいります。

－ 基本方針 －

1. 強みが生かせる重点市場分野である「建築設備」「石油化学・一般化学」「グリーンエネルギー」に経営資源を集中。新製品投入・設備及び研究開発投資を同分野に集中するとともに、機能別組織を貫く全社横断の戦略推進体制を強化し、重点施策のPDCAを回す。
2. グローバル調達・内製化・生産性向上によりコスト改善。利益を生む設備投資を積極的に実施するとともに、業務改革・無駄の排除により、利益とキャッシュ・フロー重視の方針を徹底し、ROEを向上させ、株主価値の一層の向上を図る。
3. 上記により、2018年度に営業利益100億円以上、2020年度に過去最高益を目指す。
4. 株主還元の充実として、現金配当による目標連結配当性向25%に加え、自己株式の取得にも積極的に取り組む。

－ 戦略の3本柱 －

1. 重点市場分野と重点地域を絞り込み、特化した新製品投入と複合機能化の推進により、シェアの拡大を目指す。
 - ①重点市場分野：「建築設備」「石油化学・一般化学」「グリーンエネルギー（水素、LNG）」
 - ②重点地域：日本+3極2拠点*1(特にアセアン、米州)に絞り、複合機能化を推進する。
*1 3極：欧州・米州・アセアン 2拠点：中国・インド
2. 縦(機能別組織)と横(全社横断組織)のマトリックス体制により、「組織」のマネジメントと「製品」のマネジメントの両輪を強化し、事業戦略を推進する。
 - ①組織のマネジメント：事業企画部の機能及び権限強化により、既存組織の重点施策の進捗管理とPDCAの徹底を図る。
 - ②製品のマネジメント：プロダクトマネジメントセンターを新設し、重点市場分野の徹底したマーケティングにより、戦略に基づいた必要な製品群を一気通貫で適時・迅速に投入し、プロダクトマネジメントを実践。
3. 既存のリソースを無駄なく徹底的に活用し、グローバルで戦えるコストを実現することで、さらなる売上利益拡大につなげる。
 - ①生産本部を主体にコスト改善推進体制を強化し、グローバル調達・内製化・生産性向上により、コストの大幅な改善を目指す。
 - ②エンジニアリングセンターを新設し、特注品の採算向上を図る。

第3期中期経営計画(2016年度～2018年度)の数値目標

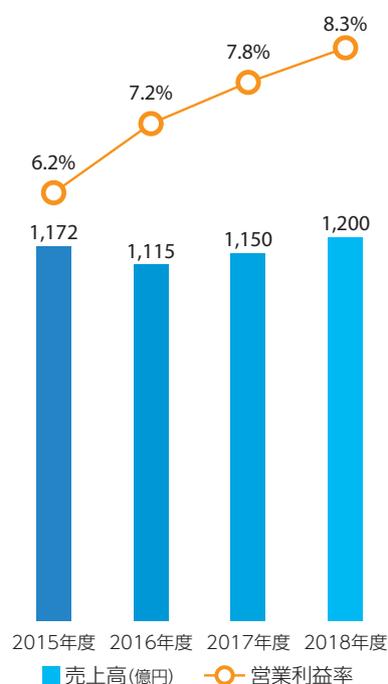
	2015年度実績	2016年度計画	2017年度計画	2018年度計画
売上高	▶ 1,172億円	▶ 1,115億円	▶ 1,150億円	▶ 1,200億円
営業利益	▶ 72億円	▶ 80億円	▶ 90億円	▶ 100億円
経常利益	▶ 73億円	▶ 77億円	▶ 87億円	▶ 97億円
親会社株主に 帰属する当期純利益	▶ 49億円	▶ 50億円	▶ 57億円	▶ 63億円
営業利益率	▶ 6.2%	▶ 7.2%	▶ 7.8%	▶ 8.3%
海外売上高比率	▶ 31.7%	▶ 31.8%	▶ 32.7%	▶ 34.2%
ROE	▶ 6.6%	▶ 6.6%	▶ 7.2%	▶ 7.7%
自己資本比率	▶ 62.9%	▶ 63.9%	▶ 64.7%	▶ 64.0%

○ セグメント別売上高

バルブ事業	▶ 935億円	▶ 920億円	▶ 950億円	▶ 1,000億円
伸銅品事業	▶ 205億円	▶ 164億円	▶ 165億円	▶ 165億円
その他	▶ 31億円	▶ 31億円	▶ 35億円	▶ 35億円

○ セグメント別営業利益

バルブ事業	▶ 103億円	▶ 110億円	▶ 119億円	▶ 131億円
伸銅品事業	▶ △0.1億円	▶ 2億円	▶ 3億円	▶ 1億円
その他	▶ 0.7億円	▶ 1億円	▶ 1億円	▶ 1億円



長期経営計画の見直し

長期経営計画「KITZ Global Vision 2020」については、2010年に策定し、リーマンショック後の経済回復を期待して業容の拡大を掲げ、その達成に向けての施策を展開してまいりました。しかしながら、その後の経営環境については、中国経済の成長率鈍化が中国国内にとどまらず、新興国経済にも大きな影響を及ぼしている一方、原油価格の下落により、エネルギー関連企業の設備投資が抑制されている状況にあります。日本国内においても、建築設備向けで東京オリンピック・パラリンピック需要は見込まれるものの、世界経済の低迷から企業業績の見通しは不透明であり、積極的な設備投資を控えている現状です。これらを踏まえ、今後の業績について楽観的に見込むことは極めて難しいと判断し、規模の拡大から確実な利益成長へとその方向を転換することといたしました。

今後は、第3期中期経営計画の達成と、新たに定めた2020年度のターゲットに向かって、グループを挙げて取り組み、企業価値のさらなる向上を目指してまいります。皆様からの変わらぬご支援をお願いいたします。



	2020年度計画	
	修正後	修正前
売上高	▶ 1,350億円	▶ 2,500億円
営業利益	▶ 125億円	▶ 200億円
営業利益率	▶ 9.3%	▶ 8.0%
海外売上高比率	▶ 37.7%	▶ 50.0%
ROE	▶ 9.0%	▶ 7.0%
自己資本比率	▶ 62.9%	▶ 70.0%



継続的な利益成長と資金効率の向上を図り
財務体質の強化と株主還元の充実の
両立を目指します。

木村 太郎

執行役員 管理本部副本部長

事業体質の変革と経営資源の集中

キッツグループは、経営の多角化の観点から、中核であるバルブ事業以外にも事業領域を拡大してまいりました。しかしながら、国内経済の低迷や、競争のグローバル化が進む中、バルブ事業及びバルブの素材である伸銅品事業に経営資源を集中することとし、事業の再編を進めています。

近年では、フィットネス事業、保険代理店事業を外部に譲渡する一方で、国内生産拠点の再編を行った他、インド及びブラジルのバルブメーカーをM&Aによりグループに加え、生産コストの削減、グローバルな市場開拓と最適地生産を推進しています。また、マイクロフィルター事業の対応領域拡大や海外展開、陸上養殖関連事業など主要事業の周辺領域での事業拡大にも注力しています。

なお、設備投資、M&A資金については、営業キャッシュ・フローの範囲内で行うことを基本としていますが、多額のM&Aなどに際しての資金調達については、その時点における最適な資金調達も検討しています。

当期はバルブ事業及び伸銅品事業に係る設備投資に加え、技術情報管理システムの開発や、ブラジルのバルブメーカー等のM&A資金の支出がありました。ほぼ単年度の営業キャッシュ・フローでまかなうことができました。

資金効率の向上と資金調達

資金効率については、国内においてはCMS (Cash Management System)により各社の余剰資金を日々グループ内で運用し、キッツ及び海外グループ会社では、原則、同通貨による余剰資金の活用、債権債務が均衡するような資金運用を実施しています。

また、有利子負債の削減のため、手元資金の圧縮にも注力していますが、突発的な資金需要の発生に備え、取引銀行各行との間で総額40億円の短期借入金の特定期限枠(コミットメントライン)契約を締結しています。

中・長期資金の調達については、取引銀行各行との関係は良好ですが、一方で、資本市場からの資金調達も視野に入れ、公募社債による資金調達も実施しています。公募社債の起債については、機動的な資金調達ができるよう、事前の発行登録制度を活用しています。2016年3月期においては、総額200億円の発行枠を設定し、格付投資情報センター(R&I)からA-の格付を取得してしました。2015年12月の第2回無担保公募社債60億円(償還期限5年債)の償還に際して、本制度を利用し、第3回無担保公募社債100億円(償還期限7年)を発行しました。なお、第3回無担保公募社債については、改めてR&I、日本格付研究所(JCR)の2社からA-の格付を取得してしました。

当期末の連結有利子負債残高は250億円で、デット・エクイティ・レシオは0.33倍、手元現預金を控除した純有利子負債残高は、103億円となりました。

財務体質の強化と株主還元

キッツグループでは、企業価値の向上に向けた新たな成長戦略の遂行、大型M&Aによるのれんの発生・毀損、大規模な自然災害や地政学的リスク等に備えるために、財務体質の強化が重要であると考えています。そのため、適正な継続的利益留保による株主資本の充実に努めています。

当期末の非支配株主持分を除く連結株主資本は、前期末比30億円増の708億円、その他の包括利益累計額を加味した自己資本比率は62.9%となりました。

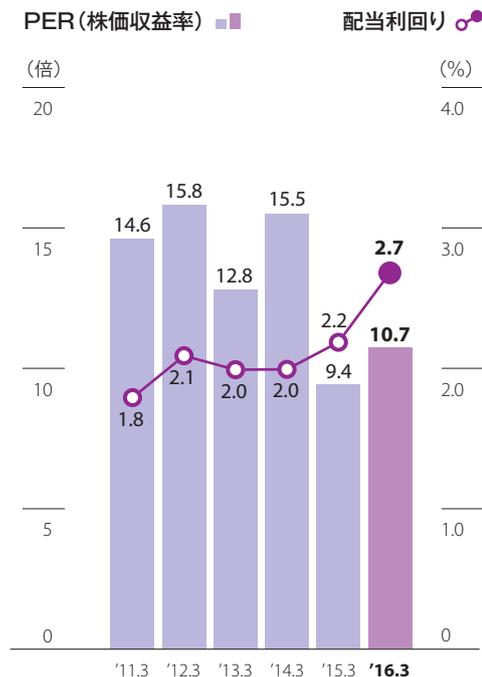
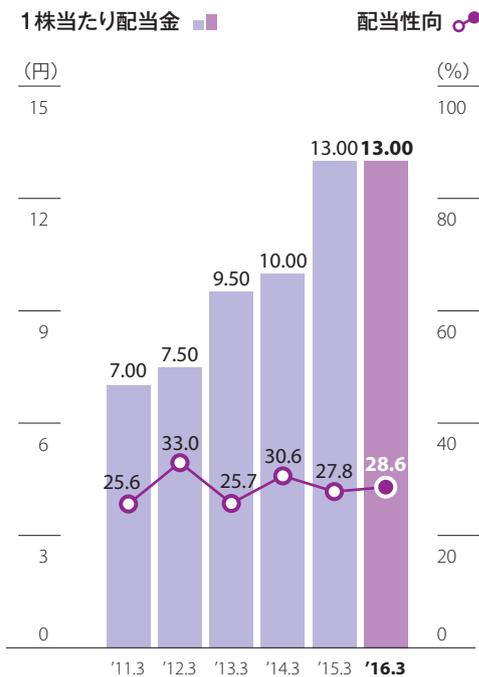
また、当社は、株主の皆様への利益還元も経営上の重要課題と位置付けています。現金配当につきましては、継続性、安定性に留意しつつ、親会社株主に帰属する当期純利益の25%前後を望ましい水準と考えています。また、利益配分の目標として自己株式の取得を含めた総還元性向については、親会社株主に帰属する当期純利益の3分の1前後を目指してまいりました。

当期は、1株につき13円の配当を実施させていただき、配当性向は28.6%となりました。また、前期に続き、当期も100万株の自己株式の取得を行い、総還元性向は38.8%となりました。



なお、当社保有の自己株式については、2016年2月に1,000万株を消却し、当期末の自己株式保有高は318万株となりましたが、この度の第3期中期経営計画の策定に当たり、総還元性向の目標を従来の3分の1前後から、自己株式の取得にさらに積極的に取り組み、株主の皆様への利益還元をより一層充実させることといたしました。この方針に基づき、2016年5月、240万株(取得価額の上限12億円)の自己株式の取得について決定しました。

ROE(自己資本当期純利益率)についても、重要な経営指標の一つであると認識しています。経営資源の集中による経営の効率改善、事業拡大などにより継続的な利益成長を図るとともに、一方で自己株式の取得等にも努め、ROEを現在の6.6%から2020年度には9%、さらに将来的には10%を目指し、資本効率の改善に取り組んでまいります。



ステークホルダーの皆様へ

事業の概要と戦略

人材の力

キッツグループのESG

データ編

事業の概要と戦略



新たな可能性への挑戦

Pick Up!

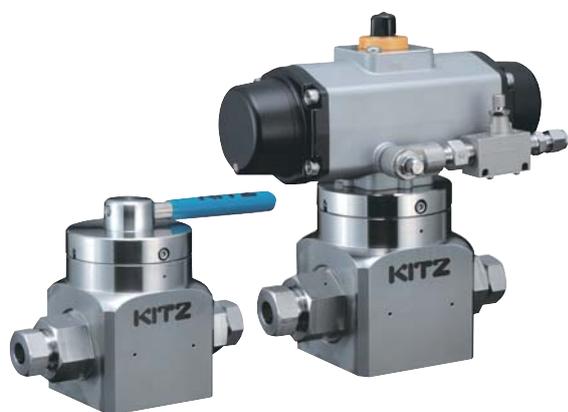
キッツグループは、環境に配慮した新商品の開発など、新たな可能性に挑戦しています。グループのシナジーを最大限に発揮し、さらなる成長を目指してまいります。

日本初 水素ステーション用 超高压ボールバルブシリーズ

キッツは、日本で初めて水素ステーション用超高压ボールバルブを開発、2012年より販売を開始しています。

燃料電池自動車は、走行中に環境に有害な排気ガスを出さず、水だけを排出する「究極のエコカー」といわれ、2014年にはその販売が開始されました。また、2020年度に開催が予定されている東京オリンピック・パラリンピックの競技場や選手村には、水素エネルギーの供給ネットワークを展開することが計画されるなど、水素エネルギー活用に向けた動きが活発になってきています。

キッツは、高性能、高品質のバルブの提供を通して、水素エネルギー社会の実現に貢献してまいります。



水素ステーション用超高压ボールバルブ



社用車に燃料電池自動車「MIRAI(ミライ)」を導入

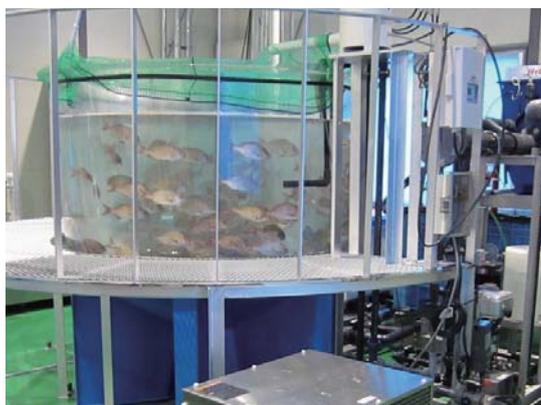
革新的な水浄化技術を活用した 「キッツスマート養殖」

キッツは、新しい技術「キッツリサクア(KITZ RECIRQUA)」を開発、キッツ茅野工場内で独自に開発した養殖プラントにて、水の循環浄化による無投薬でのマダイの長期飼育と自動制御・遠隔監視システムの運用に成功しました。さらに、クラウドICT技術との融合により、世界中の陸上養殖プラントのネットワーク化を目指しています。

国際的な水産市場では、需要の高まりと天然資源の不足から、今後、世界のマーケットに出回る魚の約半数を養殖魚が占めるとされており、この傾向はさらに加速するものと予測されています。近年、いけすを用いた海面での養殖において課題とされる海洋汚染や台風・赤潮などの自然災害の回避と安定生産への対応などを念頭に、欧米を中心に、水を循環浄化しながら屋内で魚を養殖する、「閉鎖循環型陸上養殖」が広がりを見せています。

キッツでは、2016年度より新たに「キッツスマート養殖」の事業化を進めてまいります。

KITZ RECIRQUA:「Recirculate:再循環する」と「Aqua:水」を組み合わせた造語。水の循環浄化をイメージしている。



独自に開発した陸上養殖プラント



キッツ茅野工場内の養殖プラントで飼育されたマダイ

ステークホルダーの皆様へ

事業の概要と戦略

人材の力

キッツグループのESG

データ編

バルブ事業

バルブ事業統括本部長メッセージ



水やエネルギーなどの安定供給を支え、
安心して暮らせる環境を創造します。

名取 敏照

取締役専務執行役員 バルブ事業統括本部長

バルブとは

バルブは、配管内の流体(水・空気・石油・ガスなど)を流したり、止めたり、流量をコントロールする機能を持つ「流体制御機器」の総称です。

バルブの起源は、紀元前1000年頃の古代エジプト遺跡から発掘された、木製のコックまでさかのぼることができます。1800年代半ばに紡績用ボイラーが輸入された頃、日本で金属製のバルブが初めて使われました。明治になり、水道事業や都市ガス事業がスタートしたことに伴い、日本でバルブの製造が始まりました。

今日では、上下水道、給湯、ガス、空調など、私たちの身近な生活フィールドから、石油、化学、医薬品、食品など、あらゆる産業分野の生産プロセスに至るさまざまなパイプに接続され、重要な役割を担っています。私達は日常生活の中でその存在を意識することはあまりありませんが、バルブは人々の暮らしを陰からしっかりと支えています。



総合バルブメーカーとして

キッツグループが世界有数の企業グループに成長することができたのは、あらゆるフィールドに多彩な商品を提供する総合バルブメーカーとしての地位を築いてきたことにあります。多くのメーカーが限られたフィールドに特化したり、材質や形状を絞って商品を製造・販売したりする中で、キッツグループは、青銅・黄銅やステンレス鋼、鋳鉄、鋳鋼などのさまざまな材質や形状のラインナップを有し、私達の生活フィールドから産業分野まで、グローバルに商品を提供しています。それらは、素材からの一貫生産体制により製造されており、「KITZ」は、信頼のブランドとしての地位を確立しています。

「KICS」活動によるマーケットインの発想

キッツは、目まぐるしい市況の変化や価格変動が激化する中、最小の仕掛品で、最低限の在庫にすることにより、お客様のニーズの多様化や、商品の短いライフサイクルにも機敏に対応できる「KICS」活動を1986年より展開しています。

「KICS(KITZ Innovative and Challenging System)」は受注から開発～生産～納品までの一連の工程において、停滞や無駄を徹底的に排除する革新的な経営システムです。この活動を展開することにより、マーケットインの発想で、お客様が必要とする商品を、必要な時に、必要な量だけ、より良い品質で、より安くお届けすることが可能となり、お客様の在庫負担の軽減にもつながっています。

真のグローバル化を目指して

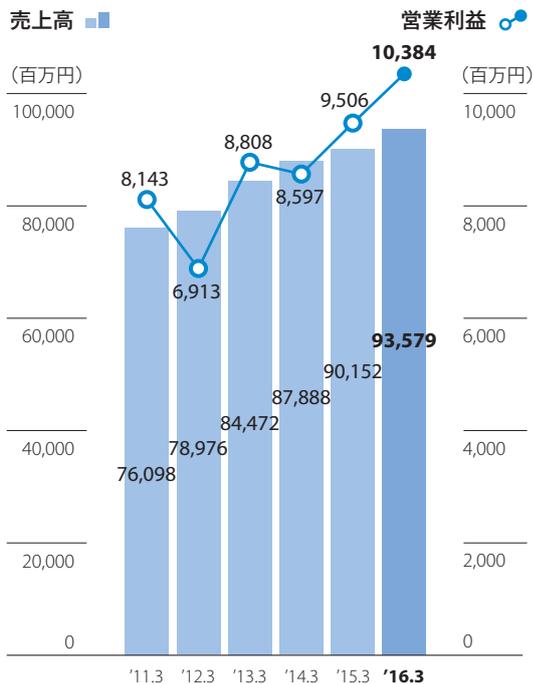
キッツグループは成長拡大分野へグループの経営資源を効率的かつ効果的に投入し、事業体質の変革による収益性の向上を図ることにより、「真のグローバル企業への進化」を目指しています。

グローバルスタンダードに基づいた世界戦略商品・高付加価値商品を投入し、シェアを拡大するとともに、海外市場の重点エリアである3極(欧州、米州、アセアン)2拠点(中国、インド)の海外拠点機能の複合化と充実強化により、各エリアに適した戦略で市場を深耕しています。



グループスタンダードモデルの
トラニオン型ボールバルブ

バルブ事業セグメントの売上高・営業利益



※バルブ事業の営業利益は全社費用等消去前の数値

中長期の成長に向けて

キッツグループは、M&Aによる事業拡大にも積極的に取り組んでいます。2015年2月に、戦略市場であるインドのバルブメーカーMicro Pneumatics Pvt. Ltd.をグループ会社化することで、インドに生産拠点と販売網を同時に獲得した他、2015年11月には、同じく重点エリアとして位置付けている米州において、ブラジルのバルブメーカーMetalúrgica Golden Art's Ltda.を買収、今後のさらなる海外事業展開に弾みをつけることとなりました。



新たに加わった製品群

さらに、2016年2月には電力・発電分野においてトップクラスのメーカーである東亜バルブエンジニアリング株式会社(東証第二部)と資本業務提携契約を締結。調達、技術、生産、販売及びサービスなどの面において、両社の強みを活かした協力体制を構築してまいります。

キッツグループは、これからもバルブを中心とした流体制御機器の総合メーカーとして、ゆたかな生活を支え続け、皆様に信頼される企業を目指してまいります。



東亜バルブエンジニアリングとの合同記者会見の様子

ステークホルダーの皆様へ

事業の概要と戦略

人材の力

キッツグループのESG

データ編

KITZ Group



Water

命の源である「水」

— 安心してお使いいただくために —

水は、私達人類をはじめ、全ての生き物にとってなくてはならない命の源です。キッツグループは、安心してお使いいただける商品・サービスを提供することにより、水の安定供給を支え、人々のゆたかな暮らしに貢献しています。

水処理技術の進化

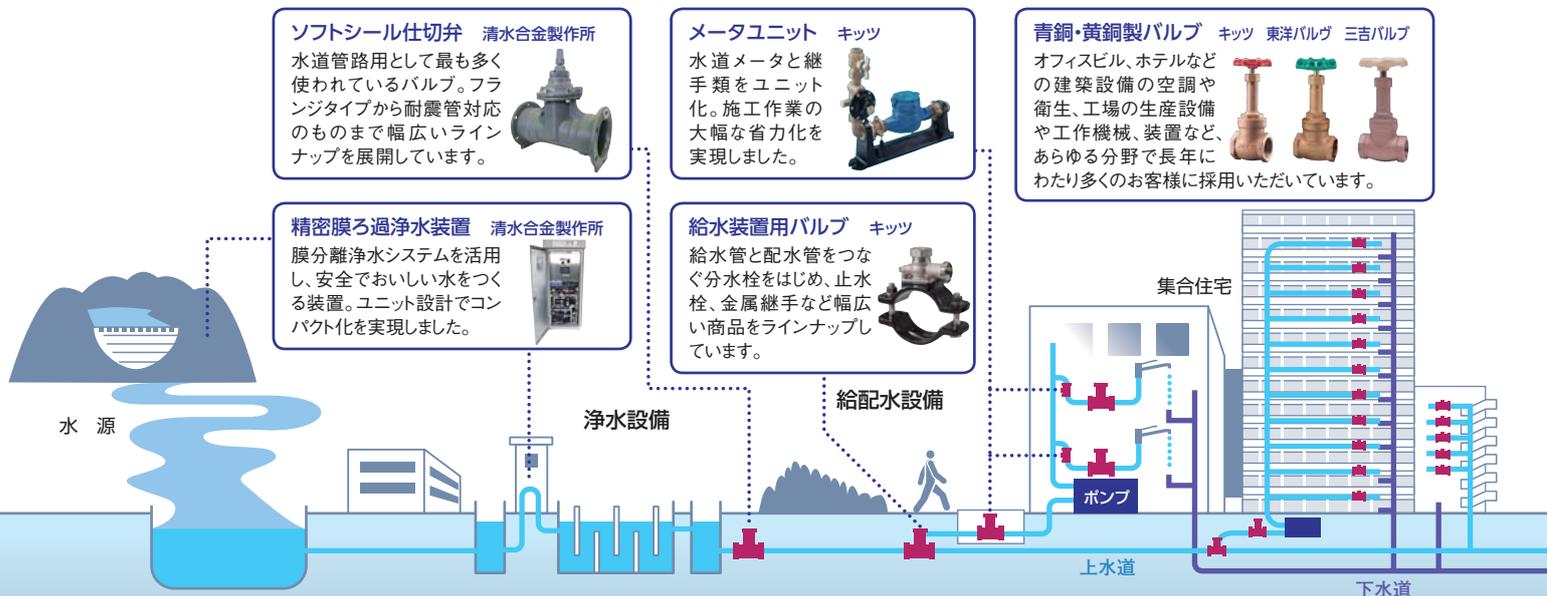
キッツグループの歴史は、水からスタートしました。創業時から製造している青銅製バルブをはじめ、長年にわたって水の流れを制御する「給配水」を担う商品を提供し続けてきました。その後、膜を使って水をきれいにする「浄水」の技術、海水などの飲用に適さない水を浄化・淡水化

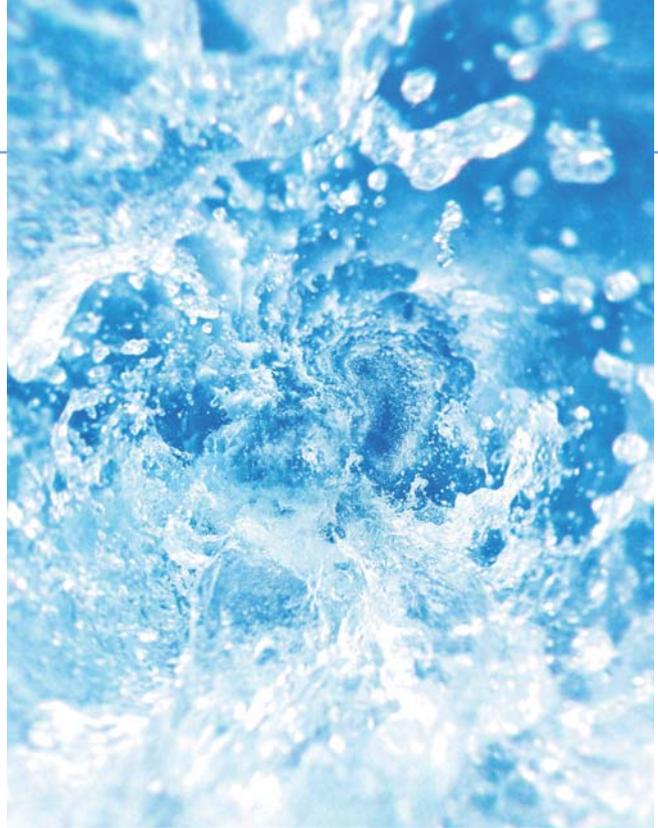
する「造水」の技術へと、キッツグループの“水の安心を高める”技術は着実に進化しています。

水に関する問題の解決に向けて

現在では、バルブからニッケル、鉛が溶け出すのを防ぐ表面処理技術や鉛レス銅合金材料など、環境に配慮した技術開発を積極的に行い、国際的な水質基準にんでいます。

キッツグループは、グループの力を結集し、長年培ってきた経験やノウハウ、技術、商品、サービスを通して、世界の“水に関する問題”の解決に貢献していきたいと考えています。





ステークホルダーの皆様へ

事業の概要と戦略

人財の力

キックグループのESG

データ編

給水設備用バルブ キット
鉛の浸出量を抑え、給水・給湯ラインの安全性を確保しています。



給湯器用バルブ キット
コンパクトな省スペース型の給湯器に合わせて設計。施工作業を簡略化しました。



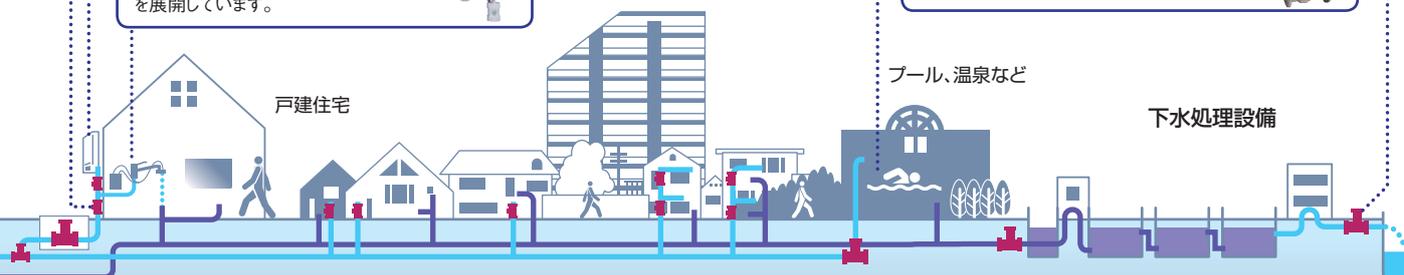
ピュアキレイザー 東洋バルブ
オゾン・紫外線・光触媒を組み合わせ「促進酸化処理」を用いた画期的な水処理装置。「強力除菌&有機質分解」で水質改善を図ります。



家庭用浄水器 キッツマイクロフィルター
中空糸膜製造技術に応用した家庭用浄水器。蛇口直結型からアンダーシンク型まで、さまざまなタイプを展開しています。



水処理施設用バルブ キット
ゲートバルブやボールチャッキバルブなど、下水処理の過程で必要とされるバルブを幅広くラインナップしています。



KITZ Group + Energy

産業を動かす大切なエネルギー資源である「石油、ガス」

—— 絶え間なく送り続けるために ——

石油、ガスなどのエネルギーは、欠かすことのできない大切な資源です。キッツグループは、石油精製・石油化学プラントやガスパイプライン、LNG(液化天然ガス)基地などのプロセスラインに、エネルギーの安定供給を担う商品を提供しています。

過酷な環境で流体を制御

石油・ガスプラントでは、高温・高圧の流体が配管を流れるため、過酷な環境に耐えられるバルブが求められます。キッツグループでは、流体の種類や温度、圧力など厳しい使用環境を想定したさまざまな試験や分析・評価を繰り返し行い、この厳しい条件をクリアした商品だけがラインナップに加えられます。

世界最大級のプラントが立ち並ぶU.A.E.、サウジアラ

ビア、クウェートなど中東の国々の他、北米やメキシコ沿岸の石油精製プラントにおいても、キッツグループの鋳鋼製バルブやステンレス鋼製バルブが活躍しています。

また、LNG基地やその関連設備では低温用バルブが、搬送設備では全溶接形鍛鋼製ボールバルブなどが採用され、天然ガスの安定供給に貢献しています。

グリーンなエネルギー社会に向けた商品開発

さらにキッツグループは、国内のバルブメーカーとして初めて、次世代エネルギーの本命といわれる水素を動力源とする燃料電池自動車に、高圧の水素を供給する水素ステーション用ボールバルブを開発するなど、環境に配慮した商品の開発にも力を入れています。

メタルシートボールバルブ Perrin GmbH

高温流体や摩耗性流体にも対応可能な耐久性の高いバルブ。過酷な環境での確実な開閉が可能です。



鋳鋼製バルブ キッツ

一般的な鋳鋼材料に加え、高温・高圧の条件下での使用に適した商品を開発、世界各地の石油関連プラントに供給しています。



空気圧式・電動式自動操作バルブ キッツ

アクチュエータを搭載した自動操作バルブ。空気圧を駆動源とする方式と、電気を駆動源とする方式があります。



3ピース・トラニオンボールバルブ KITZ Corporation of Europe, S.A.

オイル及びガスをはじめ、石油精製から石油化学、化学までのエネルギー分野で幅広く使用される工業用ボールバルブ。



ステンレス鋼製バルブ キッツ

耐食性に優れ、化学プラントや石油化学工業で幅広く使用されています。近年では、その耐食性・耐久性からコストパフォーマンスの高さが認められ、一般産業の装置用や建築設備など、さらに幅広い分野で採用されています。

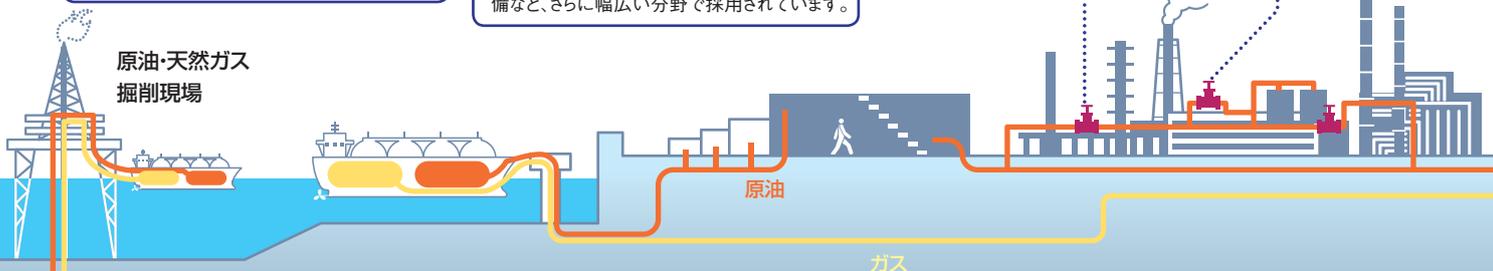


小型自動操作バルブ キッツ

産業用生産プロセスラインでの小口径配管ラインの自動化ニーズにお応えし、軽量・小型・高性能な電動式・空圧式アクチュエータを開発し、小口径バルブに搭載しました。



石油精製・石油化学プラント





ステークホルダーの皆様へ

事業の概要と戦略

人材の力

キットグループのESG

データ編

全溶接形鍛鋼製ボールバルブ キット

漏れを確実に防ぐ安全設計のパイプライン用ボールバルブ。長手溶接部を無くした全溶接ボディと、全てのシール部に2重シール方式を採用しています。



LNG(液化天然ガス)基地・搬送設備

低温用バルブ キット

LNG(液化天然ガス)製造・受入れ・サテライト基地向けをはじめ、エチレンプラント、工業用低温ガスなど、あらゆる低温弁ニーズにお応えします。



LNG用低温調節弁 ワイケイブイ

米・VALTEK INCORPORATED(現 FLOWSERVE CORPORATION)の技術に基づいたLNG用低温調節弁で、耐久性に優れ、メンテナンスが容易です。駆動部にコンパクトなシリンダーを採用し、高出力で優れた締切性能を有しています。



水素ステーション用超高压ボールバルブ

水素を動力源とする燃料電池車に燃料を供給するための水素ステーション用超高压ボールバルブ。



火力発電所

産業用フィルター

キットマイクロフィルター
超微細孔径の中空糸膜は、薬液、圧縮空気、水の精密ろ過に適しています。



高純度ガス用バルブ

キットエスシーイー
クリーン、高耐久性のステンレス製ダイヤフラムバルブ及びペロウズバルブ。



水素ステーション

半導体製造設備



信頼のブランド

キッツグループは、多数の商品ラインナップを揃え、その品質は国内外のお客様から高い信頼を得ています。中心となるKITZブランドをはじめ、あらゆる市場、分野で使われる11のブランドを展開しています。

KITZ

株式会社 **キッツ**

<http://www.kitz.co.jp/>

総合バルブメーカーとして、幅広い市場・分野に商品を提供。特に、建築設備市場、石油精製・石油化学市場に強い。

perrin

Perrin GmbH

<http://www.perrin.de/>

ドイツの工業用ボールバルブメーカー。高温・高圧の特殊用途メタルシート技術が強み。

RED-WHITE TOYO

東洋バルブ株式会社

<http://www.toyovalve.co.jp/>

日本で初めてバルブを生産したパイオニア。建築設備向けや消防防災設備用バルブを販売。環境事業にも力を入れている。

"Jso"

KITZ CORPORATION OF EUROPE, S.A.

<http://www.kitzeurope.com/>

スペインの鋳鋼製及びステンレス鋼製ボールバルブメーカー。

Miyoshi

三吉バルブ株式会社

<http://www.miyoshivalve.com/>

衛生設備を中心とした建築設備用バルブとターボ冷凍機など冷凍空調機器用バルブに特化。

MICRO

Micro Pneumatics Pvt. Ltd.

<http://www.micropneumatics.in/>

インドの工業(薬品、食品、石油)用自動ボールバルブ及びバタフライバルブメーカー。

SGS

株式会社 清水合金製作所

<http://www.shimizugokin.co.jp/>

水道機器総合メーカー。水道バルブから浄水装置までの商品を製造・販売。

EMGAE

Metalúrgica Golden Art's Ltda.

<http://www.mga.com.br/>

ブラジルの工業用ボールバルブメーカー。

KITZ SCT

株式会社 キッツ エスシーテナー

<http://kitz-sct.jp/>

半導体製造設備等の高純度流体用バルブ、継手及びユニットを製造・販売。

YKV

ワイケイブイ株式会社

<http://www.kitz.co.jp/ykv/>

総合計装メーカーである横河電機(株)、調節弁の技術力を有する米・VALTEK INCORPORATED(現FLOWSERVE CORPORATION)、(株)キッツの3社合併により設立。さまざまなアプリケーションに対する調節弁を製造・販売。

KITZ MICRO FILTER CORPORATION

株式会社 **キッツ マイクロフィルター**

<http://www.kitzmf.com/>

工業用精密フィルター及び浄水器を製造・販売。

菊ハンドルは信頼されるバルブのブランド **KITZ** のシンボルです。

日本を代表する工業デザイナー 柳 宗理(やなぎ そうり)氏の協力により誕生したハンドルは、人間工学の観点からも握りやすさを追求。指がかりの形に、大輪の菊の花弁がもつ「ふくよかさ」をシンボライズさせているため、愛称を「菊ハンドル」としました。1980年9月から青銅製バルブのハンドルデザインに採用し、順次、他の商品にも展開してきました。



ステークホルダーの皆様へ

事業の概要と戦略

人材の力

キットグループのESG

データ編



KITZ MICRO FILTER CORPORATION

高付加価値を生み出す研究開発体制

時代が求める多様なニーズにお応えするため、「安全性」「耐久性」「信頼性」を誇る流体制御機器を生み出しています。

研究開発のコンセプト

キットの開発設計部門は、「お客様に感銘的な創造商品を継続的に提供し、技術体質の強化と共に企業価値を持続的に向上させます」を行動指針として、積極果敢に研究開発に取り組んでいます。

■ コアテクノロジー

事業の核となる素材及び工法技術における一貫した要素技術の拡大化。

■ インテグレーター

お客様へのソリューション提供による技術提案型企業としての体質強化。

■ スピード

先行かつ迅速な研究・商品開発。

汎用から特殊、高付加価値システムへ進化を続ける商品開発

汎用バルブ単体の製造からスタートしたキットは、時代のニーズを先取りし、流体のオン/オフ制御から自動制御、そして単体から複合ユニットへと、高付加価値商品の開発に取り組んできました。また、人や地球環境への負荷が少ない技術開発(工法・素材開発、資材調達)を積極的に進めており、特に素材開発については、鉛レス銅合金や欧州のRoHS指令に適合した素材等、高まる環境・安全への社会的要請に応えるための商品開発にも力を入れています。

時代が求める多様なニーズにお応えするため、技術者一人ひとりがスキルを高め、日々価値創造に挑戦し続けることによって、キットグループは、卓越した「安全性」「耐久性」「信頼性」を誇る流体制御機器を生み出しています。

● 世界トップレベルのテクノロジーで進化を続ける商品開発



ラインナップの拡充
〈PFAライニングバタフライバルブ
(株)キット〉

接液部に採用した高グレードのPFA樹脂と独自の封止構造により、優れた耐塩素透過性と封止性能を持つケミカル用バルブ。



新素材の開発

〈北米向け鉛フリーバルブ(株)キット〉
キットメタルワークスと共同で開発した、高いリサイクル性と良好な切削性を有する、新たな耐食用鉛フリー黄銅材料で作られたバルブ。



高機能・超精密の技術

〈薬液用中空糸膜フィルター
(株)キットマイクロフィルター〉
日々進化する半導体技術に対応するために、中空糸膜製造技術を駆使し、ナノろ過、クリーン化を実現したフィルター。



世界のユーザーの信頼に応える トップレベルのテクノロジー

業界をリードし続けるキッツは、常にマーケットインの思考をベースに、高品質で独創的な商品をお客様にお届けしています。グループ一丸となって、高機能化・超精密化する商品技術・生産技術を育み、さまざまな分野で技術の種を开花させています。

高付加価値商品を生み出し続ける 独自の研究開発体制

キッツの研究開発の原動力は、高度な試験・分析・解析及び計測技術にあります。全ての商品は徹底した試験と分析によって管理され、これをクリアした商品だけがお客様のもとに届けられます。

● あらゆる使用条件を想定した試験・分析



流量試験

実際の配管を再現してバルブを設置し、流体を流すことにより得られる圧力の差を測定します。測定した値は、お客様のプラント設計に反映されプラント建設の迅速化に貢献しています。



曲げ強度試験

近年、配管接続には、耐震性や軽量化などが求められています。システムのプロセスで加わる応力集中に対し、バルブ接合部分の評価を行い、品質を確認しています。



ブローオフ試験

高温・高圧の流体制御では、バルブの開閉時に大きな力が加わります。使用限界条件においてもバルブが正確に作動し、高い品質を確保できるよう耐久性を確認しています。



低温試験

環境に優しいクリーンエネルギーであるLNG（液化天然ガス）の液化プラントは全世界に建設されています。低温の流体であることから、低温状態を再現した試験を行い、正確な流体制御能力が発揮できるよう、常に品質向上に努めています。



ファイアテスト

バルブのシール部材が完全に焼損するほどの火災にあっても、バルブとしての機能を維持することが可能であるかを確認し、製品の基本的設計構造に反映させています。



シミュレーション解析技術

日々進歩する各種シミュレーション解析技術を積極的に取り入れ、製品機能の事前検証や欠陥の少ない鋳造方法の確立など、商品の信頼性向上と開発期間短縮に大きく貢献しています。

ステークホルダーの皆様へ

事業の概要と戦略

人材の力

キッツグループのESG

データ編

高品質を実現する生産体制

キットグループのモノづくりは、お客様が必要とする商品を「必要な時に」「必要な量だけ」「より良い品質で」お届けすることを基本としています。

素材からの品質管理を実現した一貫生産体制

キットグループは一貫生産を基本に考え、バルブの素材である鋳物(素形材)をコア技術と位置付け、鋳物から社内生産しています。バルブの主要材料である青銅、鋳鉄、ダクタイル、ステンレス鋼、鋳鋼、それぞれの鋳造設備をグループ内で持つ一貫生産体制によって、素材からの品質保証体制の確立と多品種少量生産を実現しています。

地球環境との共存を目指して

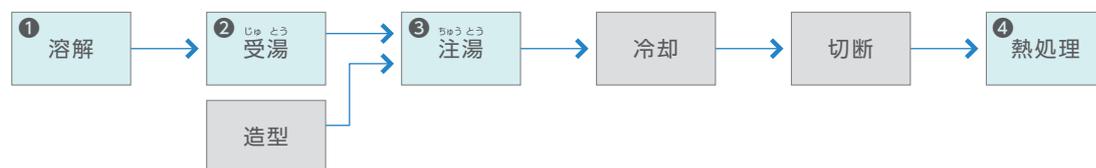
バルブは、自然資源である金属素材を主要材料としています。キットでは、一度使用された金属製品のスクラップを原材料の一部として使用する他、長年培ったノウハウを活かし、製造工程で発生する端材や切粉(切削屑)を原材料として還元するよう努めています。また、鋳造工程で使われる鋳物砂については、砂処理工程において、塊を砕いたり、ふるいで分別したりするなどの処理を経て再利用しています。繰り返し使用された鋳物砂は、基準粒径よ

り小さくなると廃棄物となりますが、廃棄された鋳物砂はセメントの補助材として利用されます。キットでは、地球環境との共存を目指し、限りある資源の有効活用を推進しています。

マーケットインの発想によるモノづくりを支える「KICS」

マーケットインの発想によるモノづくりを支えているのが、「KICS(KITZ Innovative and Challenging System)」に基づく生産方式です。KICSは、売れるタイミングに合わせて工程順に1個ずつ商品をつくることで、後工程には良品しか流さない仕組みを確立しているのと同様に、受注から生産、納品までの一連の工程における停滞や無駄の排除を実現しています。また、さらなる納期短縮を目指し、標準作業の徹底と工程改善による製造ラインの強化に継続して取り組んでいます。

● ステンレス鋼製バルブの生産工程



①溶解
原材料を高周波電気炉で溶かします。



②受湯
溶湯を取鍋に入れます。



③注湯
鋳型に溶湯を流し込みます。上と下の型と中子のすき間に溶湯が流れ込みます。



④熱処理(固溶化熱処理)
素材を1,100℃まで加熱した後、急冷(水冷)します。これにより、均一な金属組織を得ることができ、引っ張り、伸びなどの機械的性質(強度)を高めます。



品質マネジメントシステムに裏付けられた キットブランド

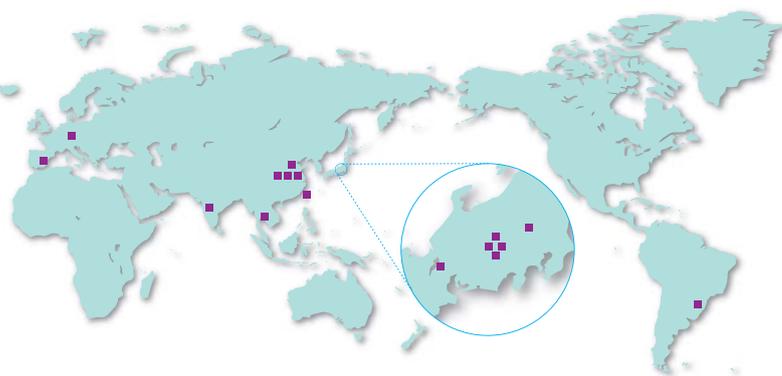
キットは、品質マネジメントシステムの重要性にいち早く着目、1989年11月、日本企業で最初にISO9001の認証を取得しました。現在では、キットグループにおける国内外全ての生産拠点においてISO9001の認証を取得し、国内においては、本社、長坂工場、伊那工場及び茅野工場
で認証を継続しています。また、日本のバルブメーカーとして最初にPressure Equipment Directive97/23/EC (PED)の認証を2001年7月に取得、台湾、タイ、中国の生産拠点でも認証を取得しています。

こうした国際的な品質規格に加え、国内では、高圧ガス保安法に基づく大臣認定試験者、JIS(日本工業規格)製品認証やJWWA(日本水道協会)が定める規格、API(アメリカ石油協会)のAPI Monogram表示許可などを取得しています。

世界最適地生産を目指した グローバルな生産ネットワーク

キットグループは、現在、グローバルな生産ネットワークの構築を進めています。

国内工場は高付加価値商品の生産を行うとともに、グローバル生産拠点のマザー工場としての重要な役割を担っています。また海外では、タイ、台湾、中国、インド、スペイン、ドイツ、ブラジルに生産拠点を設け、現地のマーケットニーズに的確かつ迅速に対応するための生産体制を構築しています。



ステークホルダーの皆様へ

事業の概要と戦略

人材の力

キットグループのESG

データ編



⑤酸洗
熱処理やショットプラストによる鑄肌表面の酸化スケールなどの汚れを取り除きます。併せて、鑄肌表面に保護皮膜を生成させ、耐食性を高めます。



⑥機械加工
切削や穴開けなどの加工を行います。



⑦組立
バルブの各部品を組み立てます。



⑧圧力検査
流体を流して圧力を加え、要求品質を満たしているか検査します。



⑨出荷
生産された商品は出荷ホームに集められ、徹底した管理のもと迅速に出荷されます。

グローバルな販売ネットワークを構築

キッツグループは、国内においては創業当初より、全国をカバーする強力な販売網を確立してまいりました。現在では、お客様が求める品質、価格、納期、サービスの全てにお応えするために、グローバルな販売ネットワークの構築を進めています。

充実した流通体制

国内には、営業拠点として、東京、大阪、中部(名古屋市)に支社を、北海道、東北(仙台市)、北関東(さいたま市)、中国(広島市)、九州(福岡市)に支店を設置している他、全国主要都市に営業所を配置しています。2015年1月には、これまで本社(千葉市美浜区)内に置いていた首都圏を担当する営業部門を東京都中央区日本橋に移転、今まで以上にお客様に密着した営業活動を実現できる体制が整いました。

また、全国をカバーする強力な代理店網により、お客様の声に即応できる販売体制を構築しています。これらの代理店とキッツは専用回線やインターネットでつながれ、マーケットの需要が生産の現場へ直接フィードバックされるとともに、業務効率の大幅な改善と業務のスピードアップを実現しています。また、お客様が持つ在庫の基準量を商品ごとに定め、出荷された数量を日単位で補充することにより、在庫量を一定に保つ後補充方式を採用。これにより、お客様は基準在庫を設定した商品の在庫量の把握が不要となる他、即納ニーズへの対応も可能となります。



きめ細かいアフターサービス

アフターサービスは、グループ会社である株式会社キッツエンジニアリングサービス(略称:KESCO)が担当しています。

近年、国内における既設プラントにおいては、改修・ロングライフ化が推進されており、メンテナンスに対する意識が高まっています。このような状況の中、KESCOは、キッツのメンテナンス部門を担い、キッツの販売ネットワークや各種データ類をバックボーンに、多様なニーズにお応えする他、サービスセンターと協力会社との連携により、全国各地にスムーズできめ細かいメンテナンスサービスを提供しています。

KESCOでは、各種バルブのメンテナンスの他、流体制御についての技術相談及び仕様検討、バルブの自動化や改造、各種プラントへの定修管理者、その他技術者の派遣も行っています。



日本+3極2拠点を重点エリアとして供給体制を整備・強化

キッツグループは、日本と3極(欧州、米州、アセアン)、2拠点(中国、インド)を世界市場の重点エリアと位置付け、それぞれの市場環境に応じた販売・サービス体制を強化しています。

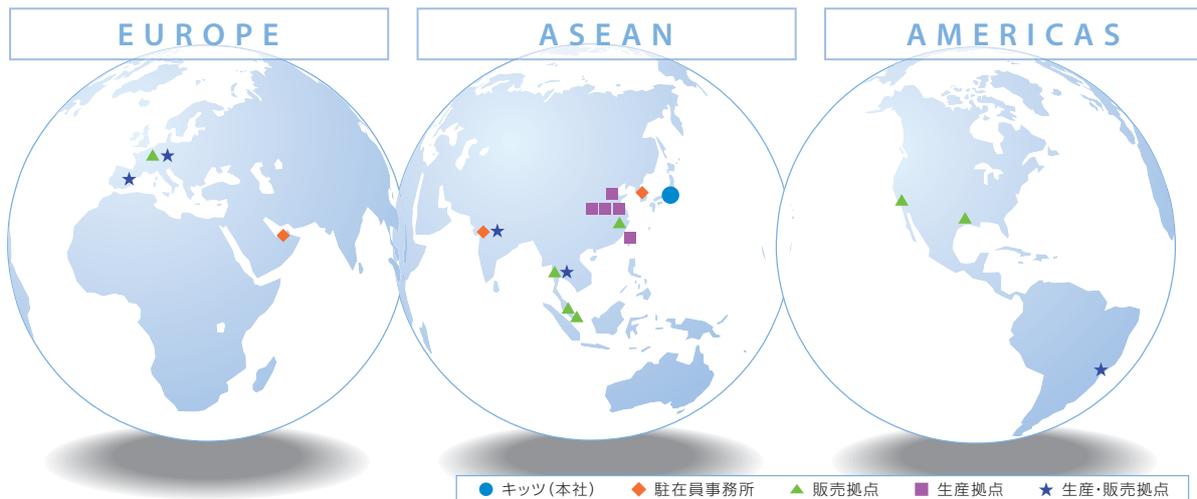


海外では、エリアごとに、販売、マーケティング、エンジニアリング、ストック、メンテナンス、サービスの機能を持つ地域統括会社を置いて地域に密着した事業を展開し、現地のお客様に満足いただける商品・サービスを提供しています。

インド、U.A.E.、韓国に駐在員事務所を置く他、中国、シ

ンガポール、タイ、アメリカ、ドイツ、スペイン、ブラジルに販売拠点を設置し、グローバルな販売ネットワークを構築しています。また、個別のご要望、商品のトラブルにも迅速に対応するために、バルブの改造や修理を行う「キットオフィシャルモディフィケーションショップ」網の展開を図っています。

キットグループ グローバルネットワーク



3極の地域統括会社

● 欧州

ドイツ・ニデラウにKITZ Europe GmbHを置いて、東欧及びロシアを含む欧州地域全体を見据えた生産・販売戦略を推進し、事業拡大を目指しています。



● アセアン

シンガポールにKITZ Corporation of Asia Pacific Pte. Ltd.を置いて、アセアン地域の中核拠点として営業活動を推進しています。



● 米州

アメリカ・テキサス州にKITZ Corporation of Americaを置いて、北米はもちろん、中南米の国々に向けた販売活動を行っています。



ステークホルダーの皆様へ

事業の概要と戦略

人材の力

キットグループのESG

データ編

バルブ業界のリーディングカンパニーとして

キッツは、バルブ業界のリーディングカンパニーとして長年培ってきた高度な技術と豊富な実績を活かし、お客様のさまざまなニーズにお応えするため、バルブに関する各種サービスを提供しています。

お客様を対象としたバルブ技術研修

キッツ研修センターは、バルブ技術に関する日本で唯一の常設研修所として1981年の設立以来、大勢の方々にご利用いただいています。近年、バルブを用いる産業は、環境・安全基準の厳格化に対応した新技術や、高機能化・省人化に対応した自動化技術の発展が著しく、これまでにないスピードで変化しています。こうした先進技術に対応できる研修プログラムとして、「バルブの基礎講座」及び「自動弁の基礎講座」を開設しています。

代理店をはじめ、工事店、ユーザー、装置メーカー、プラント関連会社、学生など、受講される方々は多岐にわたります。バルブの分解・組立、配管等の実習や、豊富な実務経験を持つ技術者による講義を通じて、受講者のスキルアップをお手伝いしています。



キッツ研修センター



実習室

バルブマイスター制度

キッツでは、自動弁及びバルブの金属材料に関して、一定の技術知識レベルに達した営業担当者をバルブマイスターとして認定する「バルブマイスター制度」を2014年度より導入しています。バルブマイスターとなるため、営業担当者は約1年間、実践に基づいた専門的な教育と研修を受講。認定試験に合格した者にはバルブマイスターの称号が授与されます。

営業担当者一人ひとりがバルブ技術のスキルを向上させることにより、お客様にさらなる価値をご提供し、業界全体の知識や技能の向上に寄与してまいります。



バルブマイスターとして認定された営業担当者の名刺には、認定マークが表示されます

お客様満足度調査

キッツでは、より良い商品・サービスを提供するため、1997年より年1回、1,000社以上のお客様を対象とした満足度調査を実施しています。お客様からのご回答を収集・分析した結果をもとに、お客様によりご満足いただけるよう一層の改善に取り組んでいます。



2013年よりWebアンケートシステムによる調査を実施

伸銅品事業

黄銅棒の製造・販売を担う

黄銅棒は、各種機械、建築資材などに幅広く使用されています。

黄銅棒を広く販売

伸銅品事業を担う株式会社キッツメタルワークスは、キッツグループの主力であるバルブ事業への黄銅棒の供給基地としての役割を担うとともに、水栓金具やガス機器、家電製品などの部材の素材として幅広く使用される高品質な黄銅棒の製造・販売を行っています。受注から納品までの情報の流れを効率化し、高品質・短納期を実現しています。

環境に優しい新素材開発

長年培った合金技術を活かし、耐脱亜鉛腐食黄銅棒や鉛レス黄銅棒、カドミレス黄銅棒など、各種規制に対応した、人にも環境にも優しい新素材の開発・販売を積極的に行っています。近年では、改正米国飲料水安全法に対応し、リサイクル性を向上させた優れた耐食性を有する鉛フリー黄銅棒「キーパロイII (XAメタル・XCメタル)」を開発、販売を開始しています。

加工品事業の効率化

2015年7月に黄銅棒の切削加工メーカーである北東技研工業株式会社がグループに加わりました。また、製造工程の効率化と収益拡大のため、キッツグループの黄銅切削・鍛造工程のキッツメタルワークスへの集約を進めています。2016年5月には新工場が完成。自社で生産した黄銅棒製品を使用した、切削加工品・黄銅鍛造品などの加工品事業を効率化するとともに、給排水栓や空調・家電市場からの多様なニーズにお応えしてまいります。



製造ライン



株式会社キッツメタルワークス

「ホテル紅や」もキッツグループです。

キッツの創業者 北澤利男の出身地である長野県諏訪市。諏訪地方には現在もキッツグループの多くの事業所が所在しています。

ホテル紅やは、諏訪湖を望む信州の雄大な自然の中で、豊かな温泉を堪能できるリゾートホテル。観光客だけでなく、地域の方々の憩いの場としても利用されています。



ステーキホルダーの皆様へ

事業の概要と戦略

人材の力

キッツグループのESG

データ編

人財の力

人事担当役員メッセージ



グローバルで戦える人財の育成と
高いモチベーションを保つ企業風土を醸成します。

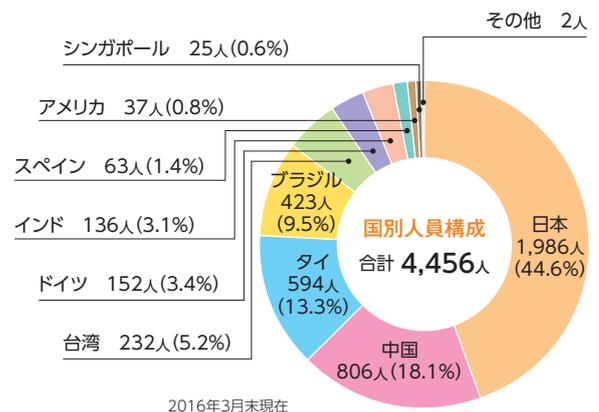
村澤 俊之
取締役執行役員 管理本部長

求める人財像

キッツの行動指針の一つ目に「Do it True(誠実・真実)」があります。誠実であること、真面目であることは、キッツグループが最も大切にしている価値観であり、キッツの良さであると考えています。これに続く行動指針が「Do it Now(スピード・タイムリー)」「Do it New(創造力・チャレンジ)」。これまで以上のスピードで事業をグローバルに展開し、めまぐるしく変化する市場の要求に応じていくためには、従来のキッツの殻を破る発想や行動力が求められます。日本の優れたところを理解し、かつグローバルな視点で物事を考えられる人財、また、キッツという舞台での挑戦を通して自らの人生を切り拓いていく人財が必要となってきています。

真のグローバル企業へ

現在、キッツグループは、世界12カ国に拠点を置き、日本以外の国で勤務する社員(出向者を含む)が全体の55.4%を占めています(2016年3月末現在)。また、キッツの社員のうち、約100名が海外赴任を経験しています。しかし、まだ「真のグローバル企業」とは言えません。全社員が日本を中心とした考え方から脱却し、世界を視野に入れた思考・行動ができる、それが私達の目指す「真のグローバル企業」の姿です。グローバルで戦える人財を育成するため、キッツでは若手のエンジニアが海外のグループ会社で経験を積む機会を増やしています。海外での仕事や暮らしを経験し、それらを糧にキッツを支える人財として成長することを期待するとともに、今後も海外グループ会社との人財交流を活発に行ってまいります。



ダイバーシティへの取り組み

グローバル化が進む中、さまざまな顧客のニーズをくみ取るためには、それを感知できるだけのいろいろな「個性」を持つ人財が必要となってきます。また、これからの企業は、多様な人財を受け入れ、その一人ひとりの良さを活かせる働き方（環境）を整え、社員全員が生き生きと働くことができる仕組みづくりが必要となってきます。このような考え方を進めていくことで、社員一人ひとりがやりがいと誇りを持って仕事に励むことができるようになって考えています。

キッツは、性別、年齢、国籍にとらわれず社員一人ひとりが最大限に力を発揮することができる環境づくりに向けて、以下の取り組みを進めています。

- 適所適財** 組織の戦略や方向性を具体的に定め、その部門や業務に適しているかを吟味し、適切な人財を配置して大切に育成する。
- 人事制度の改革** 挑戦する機会を平等に与え、社員が仕事にやりがいを感じることができる人事制度に改革する。
- 企業風土や意識の変革** 創業からの伝統を守りながら、多様な人財が認められるような企業風土を醸成。「今までのやり方が当たり前」から、「常に新しい方法を」という考え方に意識の変革を促す。
- 女性活躍の推進** 女性が存分に力を発揮できる制度・仕組みを整える。

人財育成について

キッツは、「個人能力の発揮」と「組織能力の発揮」を両輪に、人財の育成に取り組んでいます。階層別教育を柱に、職掌・職種別専門教育、特別選抜教育などの人財育成プログラムを充実させています。また、「チャレンジ目標制度」を運用し、「育成」を「評価」と「処遇」に連動させることにより、高いモチベーションを保つことができる企業風土を醸成しています。

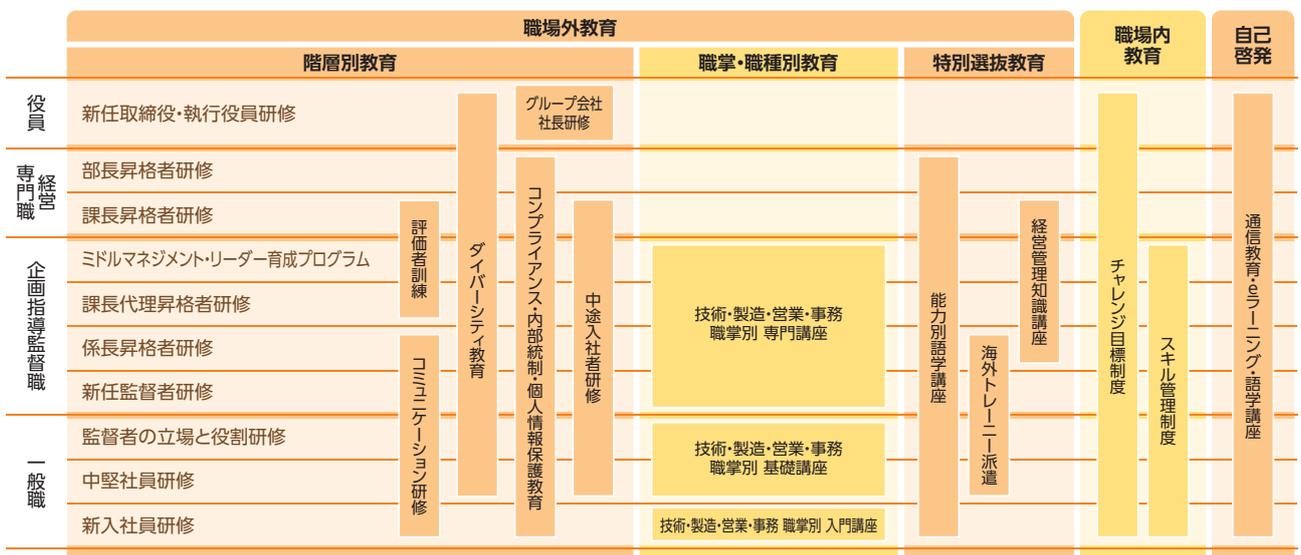
社員の安全と健康については、「安全の先取り(予防)」と「安全意識の向上」を図るため、管理体制の整備(安全衛生関係法令の遵守)、機械・設備、人への安全対策(類似災害防止)、職場風土づくり(ゼロ災運動の推進)に努めています。

「企業は人なり」という言葉があります。企業の変革を担うのも、企業の社会的な価値を確かなものにするのも、全て社員一人ひとりの行動や考え方、そして生き方にかかっていると考えています。



社内研修の様子

● キッツの人財育成体系



若手社員が語るキッツ

キッツの若手社員がそれぞれの現場で価値創造に取り組む姿を紹介します。

キッツにはグローバルで活躍できるチャンスがあります。



Roderick Andal Perez

カスタマー技術部 エンジニアリンググループ

エンジニアとしての私の仕事は、プロジェクト案件に対し、技術面でサポートをすることです。そのプロジェクトが必要とする仕様のバルブ、アクチュエータ、周辺付属機器の選定や技術計算書類の作成を担当しています。

キッツの社員は皆が一生命に働き、お互いを尊重し合っています。優しい同僚と良い環境のおかげで、毎日、気持ち良く働くことができます。キッツで働くということは、グローバルで活躍できるチャンスがあるということでもあります。

やる気次第で自分の可能性を広げていくことができます。

白木 祥子

プロジェクト設計部 プロジェクト設計第一グループ

私は、低温用バルブの納入品図、部品図、部品表を担当しています。

キッツには「女性だから」という否定的な考えはありません。やる気次第で、性別・年齢にとらわれることなく活躍できます。自分の可能性をもっと広げ、自分の力を社会に還元し貢献していきたいと思います。



改善の効果が目に見えた時にはやりがいを感じます。

南 淳也

長坂工場 U製造部 U工作二課

工作課は、鋳物にさまざまな工作機械で切削、穴開けなどの加工を施し、他の部品と組み立てて製品を仕上げ、検査までを行う製造の中核部門です。

私は、現在、生産効率を上げるための改善活動を行っています。1台当たりの加工工程を短縮させるなど、改善の効果が目に見えた時にはやりがいを感じます。





語学力を磨き、
英語を使う仕事にもチャレンジしたいと思います。

上野 麻里絵

プロジェクト営業部 プロジェクト第一営業所

プロジェクト案件の営業担当として、プラントメーカーへの営業活動を行っています。時間をかけて、お客様と仕様を打ち合わせ、ご注文をいただき、無事に商品が納入された時にはとてもやりがいを感じます。

キッツは英語の研修が充実しています。これからも語学力アップを図り、英語を使う仕事にもチャレンジしたいと思っています。

上司からの「何でもやっごらん」という言葉は、
今でも忘れられません。

石原 祐樹

海外業務部

アジアの代理店や工事業者、石油化学関連企業を中心に営業活動を行っています。私は入社して一年半足らずで、台湾エリアのお客様を1人で担当することになりました。その時の、上司からの「何でもやっごらん」という言葉は、今でも忘れられません。

私達の競争相手は「世界」にいます。私達が攻勢をかけていくことが重要です。世界の競合メーカーよりもクリエイティブな、世界で通用する営業マンを目指します。



仕事を通して得た刺激が
自分自身の成長につながっています。

田中 宏明

法務部 法務グループ

法務グループは、法務的な見地から企業活動で起こり得る紛争を予防し、また、発生した紛争の解決を図る業務を担当しています。私は、他社と締結する契約書の作成や審査、各種法律相談の他、セミナー等の開催による法務教育を主に担当していますが、若いうちから責任のある仕事を任せられていると感じています。仕事を通して得たさまざまな経験や刺激は、自分自身の成長につながっていると思います。



キッツグループのESG

ESG : Environment (環境)、Social (社会)、Governance (ガバナンス)



作品名：大杯《フランスの薔薇》
作者名：エミール・ガレ
制作年：1901年
高さ：43.0cm

ガレの時代、故郷ロレーヌ地方の一部はドイツに割譲されていた。本作は占領地メスの街を見下ろすサン・カンタン山にしか咲かないとされる野生のバラ(ロサ・ガリカ=フランスの薔薇)をテーマに、表に犠牲を表す赤い蕾、裏には静かに花開くたくましい抵抗の姿が表されている。メス出身の園芸家シモンがナンシーの協会を去る記念にデザインされた大作である。

北澤美術館所蔵

キッツは、社会貢献活動の一環として公益財団法人北澤美術館の活動を支援しています。

経営体制

(2016年6月29日現在)

取締役

代表取締役社長 **堀田 康之**

1955年6月18日生
所有株式数 123,100株
取締役在任年数 9年



1978年 3月 当社入社
1997年 1月 営業本部中部支社長
2001年 4月 長坂工場長
2001年10月 株式会社キッツエスシーティー常務取締役
2004年 6月 同社代表取締役社長
2006年 4月 当社常務執行役員、バルブ事業部長
2007年 4月 専務執行役員、バルブ事業部長
2007年 6月 取締役、専務執行役員、バルブ事業部長
2008年 6月 代表取締役社長、社長執行役員、バルブ事業部長
2009年 4月 代表取締役社長、社長執行役員、現在に至る

選任理由

2008年に当社代表取締役社長に就任して以来、経営トップとしての強いリーダーシップを発揮し、当社グループのグローバル化とコーポレートガバナンスの強化を推し進めてきました。これらの知見及び経験は、当社グループの企業価値の向上に貢献するものであると判断しました。

取締役 **名取 敏照**

1957年1月20日生
所有株式数 26,700株
取締役在任年数 5年



1980年 3月 当社入社
1999年10月 生産本部茅野工場長
2004年 4月 株式会社キッツメタルワークス常務取締役
2009年 7月 同社代表取締役社長
2010年 4月 当社執行役員、生産本部長
2011年 6月 取締役、執行役員、生産本部長、NEW KICSセンター担当及びグループ会社生産部門管掌
2013年 4月 取締役、常務執行役員、バルブ事業統括本部長及びNEW KICSセンター長、グループ会社生産部門管掌
2014年 4月 取締役、専務執行役員、バルブ事業統括本部長及びNEW KICSセンター長、グループ会社生産部門管掌、営業部門管掌、現在に至る

選任理由

当社生産部門担当の執行役員やグループ会社社長を歴任し、2011年に当社取締役に就任して以来、バルブ事業を統括してきました。これらの知見及び経験は、当社グループの企業価値の向上に貢献するものであると判断しました。

取締役 **平島 孝人**

1959年9月10日生
所有株式数 90,440株
取締役在任年数 4年



1985年 3月 当社入社
2002年 7月 生産本部諏訪工場長
2004年 4月 株式会社キッツマイクロフィルター取締役
2006年 4月 同社代表取締役社長
2011年 4月 当社執行役員、技術本部長及びグループ会社技術部門管掌
2012年 6月 取締役、執行役員、技術本部長及びグループ会社技術部門管掌
2013年 4月 取締役、執行役員、バルブ事業統括本部技術本部長及びグループ会社技術部門管掌
2016年 4月 取締役、執行役員、バルブ事業統括本部技術本部長及び同統括本部プロダクトマネジメントセンター長、グループ会社技術部門管掌、現在に至る

選任理由

当社技術部門担当の執行役員やグループ会社社長を歴任し、2012年に当社取締役に就任して以来、当社グループの技術開発を統括してきました。これらの知見及び経験は、当社グループの企業価値の向上に貢献するものであると判断しました。

取締役 **村澤 俊之**

1959年2月9日生
所有株式数 56,900株
取締役在任年数 新任



1981年 3月 当社入社
2003年 4月 経営企画部長
2009年 4月 執行役員経営企画部長、広報・IR室及び関連事業担当
2011年 4月 執行役員、経営企画本部副本部長、経営企画部、広報・IR室及び関連事業担当
2011年10月 執行役員、経営企画本部長
2014年 4月 執行役員経営企画本部長、関連事業(伸銅品事業、サービス事業)担当
2016年 4月 執行役員管理本部長、内部監査室及びグループリスクマネジメント担当
2016年 6月 取締役、執行役員、管理本部長、内部監査室及びグループリスクマネジメント担当、グループ会社管理部門管掌、現在に至る

選任理由

当社経営企画部門担当の執行役員やグループ会社取締役を歴任し、経営計画の企画立案を行うなど、グループ一体となった経営を牽引してきました。これらの知見及び経験は、当社グループの企業価値の向上に貢献するものであると判断しました。

ステークホルダーの皆様へ

事業の概要と戦略

人財の力

キッツグループのESG

データ編

取締役(社外) **まつもと かずゆき**
松本 和幸

1945年9月21日生
所有株式数 2,900株
取締役在任年数 3年



1970年 4月 帝人製機株式会社入社
2001年 6月 同社取締役
2003年 9月 ナプテスコ株式会社執行役員
2004年 6月 ナプテスコ株式会社取締役
2005年 6月 ナプテスコ株式会社代表取締役社長
2011年 6月 ナプテスコ株式会社取締役会長
2013年 6月 ナプテスコ株式会社相談役、
株式会社トプコン社外取締役、現在に至る
当社取締役、現在に至る

選任理由

長年にわたり、ナプテスコ株式会社の経営者として活躍され、企業経営者としての豊富な経験に加え、技術戦略に関する幅広い見識を有しておられることから、当社グループの企業価値の向上に貢献するものであると判断しました。

取締役(社外) **あもう みのぶ**
天羽 稔

1951年12月9日生
所有株式数 600株
取締役在任年数 1年



1979年 4月 デュポンファーマーイースト日本支社
(現デュポン株式会社)入社
2000年 3月 デュポン株式会社取締役
2002年 3月 デュポン株式会社常務取締役
2004年 3月 デュポン株式会社専務取締役兼
エンジニアリングポリマー事業部
アジア太平洋地域リージョナルディレクター
2005年 7月 デュポン株式会社取締役副社長
2006年 9月 デュポン株式会社代表取締役社長
2013年 1月 デュポン株式会社代表取締役会長兼
デュポンアジアパシフィックリミテッド社長
2014年 9月 デュポン株式会社名誉会長
2015年 6月 当社取締役、現在に至る

選任理由

長年にわたり、グローバルに事業を展開するデュポン株式会社の経営者として活躍され、企業経営者としての豊富な経験に基づく高い見識を有しておられることから、当社グループの企業価値の向上に貢献するものであると判断しました。

監査役

常勤監査役 **あづま たかふみ**
我妻 孝文

1948年2月26日生
所有株式数 97,100株
監査役在任年数 11年



1976年 4月 当社入社
1998年 6月 取締役、海外事業部長
1999年 4月 執行役員、海外事業部長
2005年 6月 常勤監査役、現在に至る

選任理由

長年にわたり当社の執行役員海外事業部長として事業経営の経験を重ねており、監査役に期待される相当程度の知見を有しており、また、当社常勤監査役としての豊富な経験が、当社の監査に反映されることが期待できると判断しました。

監査役(社外) **みつふじ あきお**
光藤 昭男

1948年2月4日生
所有株式数 2,900株
監査役在任年数 3年



1972年 4月 東洋エンジニアリング株式会社入社
1999年 3月 株式会社荏原製作所入社
2000年 6月 同社取締役
2002年 6月 同社上席執行役員
アイ・ティ・エンジニアリング株式会社
代表取締役社長
2004年 6月 株式会社荏原製作所取締役常務執行役員
2006年 4月 株式会社荏原製作所常務執行役員
2008年 6月 株式会社荏原エージェンシー代表取締役社長
2011年 6月 特定非営利活動法人日本プロジェクトマネジメント
協会理事長、現在に至る
2013年 6月 当社監査役、現在に至る

選任理由

経営者としての豊富な経験と幅広い見識を当社の監査に反映していただくとともに、独立性・中立性を担保された立場から、当社経営の健全性確保に貢献していただけると判断しました。

常勤監査役 **こんどう まさひこ**
近藤 雅彦

1952年9月8日生
所有株式数 31,400株
監査役在任年数 新任



1977年 8月 当社入社
2000年 7月 総務人事部長
2004年 4月 執行役員、総務人事部長、労務、
環境安全部及び広報・IR室担当
2010年 4月 執行役員、管理本部副部長、総務人事部、
環境安全部及びグループリスクマネジメント担当
2012年 6月 取締役、執行役員、管理本部長、
内部監査室及びグループリスクマネジメント担当、
グループ会社管理部門管掌
2014年 4月 取締役、常務執行役員、管理本部長、
内部監査室及びグループリスクマネジメント担当、
グループ会社管理部門管掌
2016年 6月 常勤監査役、現在に至る

選任理由

グループ会社を統括する管理部門担当の取締役として当社の経営に携わり、経営基盤の強化やグループリスクマネジメント体制の構築及び強化を推し進めてきました。これらの事業経営、労務・会計・財務に関する知見及び経験が、当社の監査に反映されることが期待できると判断しました。

監査役(社外) **たかい たつひろ**
高井 龍彦

1952年2月3日生
所有株式数 3,600株
監査役在任年数 1年



1974年 7月 三井金属鉱業株式会社入社
2004年 6月 同社執行役員財務部長、
三井金属エンジニアリング株式会社社外監査役
2007年 6月 三井金属鉱業株式会社最高財務責任者(CFO)兼
上席執行役員財務部長
2008年 6月 三井金属鉱業株式会社常勤監査役
2011年 6月 株式会社ナカポーテック社外監査役
2015年 6月 当社監査役、現在に至る

選任理由

三井金属鉱業株式会社において、長年同社の経理業務を担当されたのち、最高財務責任者(CFO)等を歴任され、財務及び会計に関する相当程度の知見を有しており、また、同社常勤監査役としての豊富な経験を当社の監査に反映していただけると判断しました。

執行役員

社長執行役員 **堀田 康之**
 専務執行役員 **名取 敏照**
 執行役員 **平島 孝人**
 執行役員 **村澤 俊之**

執行役員 **下平 和彦**

1953年5月31日生

1977年 3月 当社入社
 1999年11月 法務知的財産部長
 2009年 4月 執行役員、管理本部法務知的財産部長
 2011年 4月 執行役員、法務部長、知的財産部担当、現在に至る

執行役員 **木村 太郎**

1959年8月4日生

1991年12月 当社入社
 2001年 6月 経理部長
 2010年 4月 管理本部 経理統括部長
 2011年 4月 執行役員、管理本部副本部長、
 経理部及び内部統制推進室担当
 2013年 4月 執行役員、管理本部副本部長、
 経理部及び内部統制担当、現在に至る

執行役員 **平林 一彦**

1959年8月6日生

1982年 3月 当社入社
 2004年 4月 バルブ事業部生産本部生産企画部長
 2012年 4月 生産本部副本部長
 2013年 4月 執行役員、バルブ事業統括本部生産本部長、
 現在に至る

執行役員 **坂根 哲夫**

1955年7月23日生

1980年 3月 当社入社
 2001年 4月 汎用弁事業本部中国支店長
 2011年 4月 営業本部大阪支社長
 2014年 4月 執行役員、バルブ事業統括本部国内営業本部長、
 現在に至る

執行役員 **小出 幸成**

1959年1月15日生

1982年 3月 当社入社
 1999年 8月 三吉バルブ株式会社常務取締役
 2004年12月 国内営業本部中部支社長
 2008年 4月 国内営業本部営業企画部長
 2013年 4月 バルブ事業統括本部事業企画部長
 2015年 4月 執行役員、IT統括センター長、現在に至る

執行役員 **小山 順之**

1959年3月9日生

1984年 3月 当社入社
 2007年 4月 バルブ事業部生産本部生産技術部長
 2008年10月 バルブ事業部生産本部SC製造部長
 2013年 4月 バルブ事業統括本部生産本部生産技術センター長
 2015年 4月 執行役員、CS統括センター長、現在に至る

執行役員 **河野 誠**

1966年3月10日生

1988年 4月 当社入社
 2008年 8月 バルブ事業部海外営業本部プロジェクト営業部長
 2011年12月 プロジェクト統括部長
 2013年 4月 バルブ事業統括本部生産本部生産管理部長
 2015年 4月 バルブ事業統括本部事業企画部長
 2016年 4月 執行役員、経営企画本部長、
 関連事業(伸銅品事業、サービス事業)担当、
 現在に至る

ステークホルダーの皆様へ

事業の概要と戦略

人材の力

キックグループのESG

データ編

コーポレート・ガバナンス

基本的な考え方

キッツは、創造的かつ質の高い商品・サービスの提供により持続的に企業価値の向上を図ることを企業理念に掲げ、社会的に責任ある企業として、株主の皆様をはじめ、全てのステークホルダーに配慮した経営の実現に取り組んでいます。

また、経営の効率性とコンプライアンスの強化を図るため、迅速かつ効率が良く、健全で透明性の高い経営が実現できるよう、さまざまな施策を講じ、コーポレート・ガバナンスの充実に取り組んでいます。

取締役会・取締役

キッツの取締役会は、株主に対する受託者責任を踏まえ、キッツグループの持続的成長と中長期的な企業価値の向上を目指し、経営方針、中長期経営計画及び各年度の事業計画等を含む経営上の重要事項の審議・決定と業務執行の監督を行うとともに、グループ全体の内部統制システムの構築の責務を担っています。

取締役会は、現在、業務執行取締役4名と社外取締役2名の計6名で構成されており、原則として毎月開催し、取締役会規程に定められた付議事項についての審議・決議を行う他、経営上の重要な諸課題について闊達な議論を行っています。なお、取締役の任期は、意思決定の迅速化と業務執行責任の明確化を図るため1年としています。

また、社外取締役は、企業経営に関する豊富な経験と幅広い見識を有し、取締役会の経営判断や意思決定に加わることはもとより、当社の経営判断に対する適切な助言及び業務執行の監督の役割を果たしています。

なお、取締役会は、2016年5月から、取締役及び監査役を対象とする取締役会の実効性に関するアンケート調査を実施し、当該調査結果を踏まえた取締役会の実効性向上のための課題について議論しています。

監査役会・監査役

キッツの監査役会は、法令、定款及び諸規程などに基づき、監査役会が策定した監査役監査基準及び監査計画等に従い、取締役の意思決定の過程や職務執行状況の監査を行う他、四半期ごとに会計監査人から会計監査の結果につ

いて報告を受けるとともに、会計監査人との意見交換を行っています。

また、取締役会に出席し、取締役会の意思決定の状況及び各取締役の監督義務の履行状況を監視・検証することに加えて、重要な会議への出席や事業所・子会社の往査に加え、取締役、執行役員及び社員などからの情報聴取などを通じて、取締役の業務執行について監査しています。

監査役会は、現在、常勤監査役2名と社外監査役2名の計4名で構成されており、原則として毎月開催しています。

社外監査役は、企業経営に関する豊富な経験と幅広い見識を有しており、中立的・客観的な視点から監査を行うことにより、経営の健全性を高めています。なお、財務・会計に高度な専門知識を有する監査役を1名以上選任することとしています。

また、監査役会は、監査役の業務をサポートするため、監査役室を設置し、専任のスタッフが監査役の指示により情報収集や調査などを行うとともに、会計監査人及び内部監査室との連携を図っています。

経営会議・執行役員

キッツは、執行役員(業務執行取締役を含む)で構成する経営会議を、原則として毎月開催し、経営上の重要事項について、戦略的かつ多面的な検討を経て方針決定を行っています。また、キッツは、取締役会が経営方針・経営計画などの経営全般に係る重要事項についての議論をより集中して行えるよう、取締役会への付議事項の基準を見直し、執行役員への権限移譲を進めています。

取締役・監査役及び執行役員の指名

取締役候補者及び監査役候補者の指名については、代表取締役が諮問する会議を開催し、能力・知識・経験・専門性・実績・公正性等の観点から踏まえて審議し、最終的に取締役会において候補者を決定しています。なお、監査役候補者の指名を行う場合は、監査役会の審議・同意を得ています。

執行役員の指名については、代表取締役が能力・知識・経験・専門性・実績・公正性等を考慮して候補者を指名し、取締役会にて選任しています。

社外役員の独立性

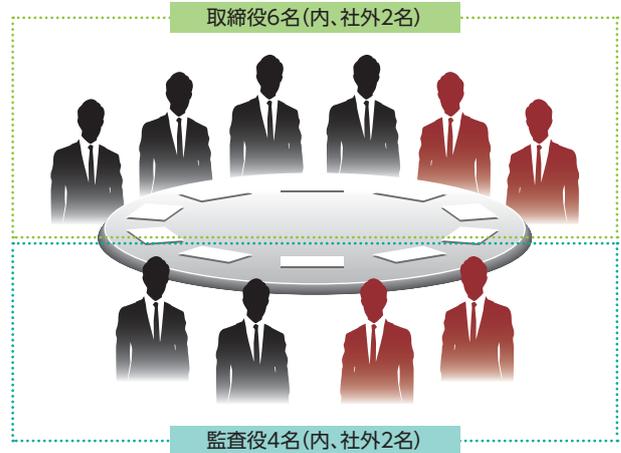
キットの社外取締役及び社外監査役は、全員が東京証券取引所の定める独立性判断基準を満たしており、東京証券取引所に独立役員の届け出を行っています。

取締役・執行役員の報酬

業務執行取締役及び執行役員の報酬は、代表取締役が諮問する会議を開催し、最終的に取締役会において決定しています。

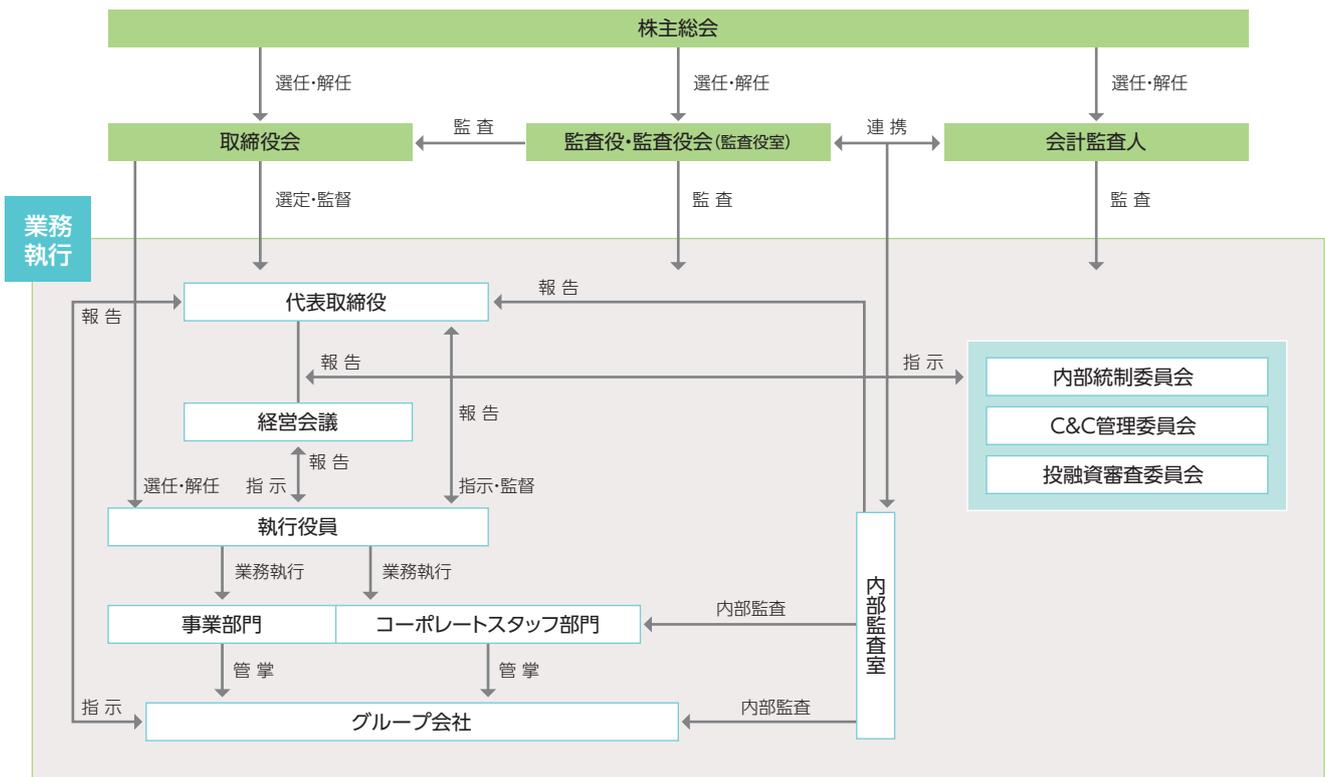
報酬は、月額報酬と賞与で構成されています。また、賞与は、内規に基づく一定の条件を満たし、適正な利益確保が行われた場合に支給するものとし、その原資は、親会社株主に帰属する当期純利益の1%を目途としています。

なお、2016年7月より、報酬と株式価値との連動性をより明確にし、中長期的な業績の向上と企業価値の増大への



貢献意識を高めることを目的として、各期の業績指標の達成度に応じ、月額報酬及び賞与の一部として当社株式を付与する、いわゆる「業績連動型株式報酬制度」を導入しています。

● コーポレート・ガバナンス体制の概要



※C&C: クライシス及びコンプライアンス

内部統制システム

基本的な考え方

キッツは、適切な内部統制システムを構築することは、株主の皆様をはじめとする全てのステークホルダーの期待や信頼に応えるための基本条件であって、取締役会の重要な責務であると考えており、取締役会が定めた内部統制システム構築の基本方針に基づき、グループが一体となって内部統制システムの整備・運用に取り組んでいます。

内部統制の整備・運用

キッツは、金融商品取引法に基づき、財務状況をはじめとする経営内容の透明性を高めるため、キッツ及びグループ会社において、各部門による内部統制の自己点検を行うとともに、内部統制構築の状況について内部監査を実施し、内部統制の整備・運用の定着を図っています。

コンプライアンスの推進及びリスクマネジメント

コンプライアンスの推進

キッツは、コンプライアンス経営を行うことは企業が持続的に発展するための基本かつ必須の条件であると認識しています。

そのため、企業理念である「キッツ宣言」を定め、その「行動指針」のトップに「Do it True(誠実・真実)」を掲げています。また、コンプライアンス意識の高揚と知識の向上を図るため、さまざまな取り組みを行っています。

行動規範、内部通報制度、コンプライアンス教育及び違反者に対する懲罰等をプログラム化したグループ共通の「コンプライアンス・ガイドブック」を作成し、キッツ及びグループ会社の役員・社員に配布しています。

また、コンプライアンス意識の高揚と知識の向上を図るため、法令及び法務に関する教育セミナーの開催を毎年計画的に行っています。

リスクマネジメント

キッツは、企業活動に伴うさまざまなリスクをコントロールすることは経営の重要な課題であると認識しています。そのため、事業活動における多種多様なリスクを的確に把握、分析し、リスクの顕在化を未然に防止・抑制する施策の検討と実施を行うとともに、危機発生に迅速かつ的確に対応するための体制整備にグループを挙げて取り組んでいます。

内部通報・相談窓口の設置

キッツは、通常の内部統制システムやコンプライアンス体制において把握できない内部情報を収集するため、内部通報制度を整備・運用しています。この制度は、キッツまたはグループ会社の役員・社員から、コンプライアンス行動規範(法令遵守を含む)に違反する行為に関する情報を、コンプライアンス・インフォメーション・デスク(通報窓口・社内名称「CID」)が受け付け、C&C管理委員会が迅速に調査を行い、適切な措置を講じる仕組みです。

C&C管理委員会

キッツは、代表取締役社長を委員長とするC&C(クライシス及びコンプライアンス)管理委員会を2002年に設置し、経営リスクの未然防止、危機対応及びコンプライアンス経営の徹底を図るため、方針策定と施策の実施に取り組んでいます。

なお、CIDは、グループ会社ごとに設置している他、グループ共通としてキッツ及び顧問弁護士事務所に設置しています。CIDが通報を受け付けた場合は、通報者の秘密を保護し、グループ各社の代表取締役社長を委員長とするC&C管理委員会が迅速かつ適切に措置する体制を確保しています。

コンプライアンス教育

キッツは、コンプライアンス経営の徹底を図るため、コンプライアンス経営の重要性、基本方針、コンプライアンス

個人情報の保護

キッツは、2004年12月に個人情報保護方針を定め、個人情報保護の取り組みを開始し、個人情報の厳格な管理を徹底しています。

環境活動

キッツは、地球環境保全のためにグループを挙げて環境経営を推進します。

キッツグループ環境理念

キッツグループは、環境に配慮した商品・サービスの提供と事業活動の推進により、社会から信頼される企業を目指します。

キッツグループ環境行動方針

環境を経営の重要な視点として意識し、一人ひとりの社員が次の施策に積極的に取り組みます。

1. 環境に配慮した商品・サービスの開発と提供
2. 資源の有効活用
3. 廃棄物の削減と再利用・再利用の推進
4. 環境汚染の防止・予防

キッツグループは、真のグローバル企業への進化に向けて、「グループを挙げた環境経営の推進」を経営基盤強化の一つとして位置付け、これをもとに「環境マネジメント体制

の強化」「環境負荷の低減及び環境関連法規制対応」の2つの目標を設定しています。

● 環境マネジメント体制の強化

国内の全生産拠点で完了しているISO14001認証取得を海外拠点にも広げていきます。早期に海外の全生産拠点での取得を完了し、真のグローバル企業としての環境管理体制の構築を目指します。

● 環境関連法規制対応及び環境負荷の低減

日本国内はもとより、欧州、アジア、米国など世界的に規制が厳しくなる環境問題に対し、各種環境法規制への遵守にとどまらず、事業活動に影響を及ぼすあらゆるリスクを排除する活動に取り組んでいきます。

また、事業活動に投入されるエネルギーや水資源、事業活動によって排出されるCO₂、廃棄物、化学物質の削減に取り組んでいきます。限りある資源を効率的に活用するとともに、徹底したムダの排除により総量と原単位の両面から環境負荷低減に取り組んでいきます。

長期経営計画におけるグループ環境目標

1. 環境マネジメント体制の強化

- 海外拠点のISO14001認証取得
- 環境関連数値の管理体制の構築

2. 環境負荷の低減及び環境関連法規制対応

目標設定項目

- CO₂排出量
CO₂排出量原単位(t-CO₂/億円)を2020年度に2013年度比△10%削減
(原単位:2013年度 58.81→2020年度 52.71)

目標達成に向けた環境経営の考え方と取り組み

経営基盤強化 (グループ環境経営)

リスクの予防

両立

コストの低減

管理体制の強化

- 仕組みづくり
- 人材育成
- 見える化

活動の効率化

- グループ活動
- システムの活用

環境負荷物質の低減

- 温暖化対策
- 共通課題(廃棄物・水資源など)
- 地域への配慮
- 将来リスクへの対応

環境目標と実績 第2期中期経営計画(2013年度～2015年度)において「グループ環境経営の推進」を掲げ、環境活動を進めてまいりました。

重点テーマ	実施項目	2015年度到達目標	2015年度実績
環境経営の 確立	1.環境マネジメント体制の強化		
	①グループ環境管理体制の構築	①ISO14001統合認証更新 ②海外生産拠点の環境実績管理の推進 (エネルギー、廃棄物等)	①2015年10月にグループ更新審査受審完了 ②Metalúrgica Golden Art's Ltda. (ブラジル)環境監査実施
環境負荷の 低減	2.循環型社会の形成		
	①廃棄物排出量原単位(t/億円)	売上高原単位 7.07t/億円	6.81t/億円(※)
	②廃棄物最終処分量原単位(t/億円)	売上高原単位 0.30t/億円	0.31t/億円(※)
	③水資源量原単位(m ³ /億円)の削減	売上高原単位 414.71m ³ /億円	438.75m ³ /億円(※)
	3.有害化学物質の削減		
	④PRTR第1種指定化学物質排出量 原単位(t/億円)の削減	売上高原単位 0.24t/億円	0.24t/億円(※)
	4.地球温暖化防止		
	⑤エネルギー消費量原単位(GJ/億円)の低減	売上高原単位 469.27GJ/億円	484.16GJ/億円(※)
⑥地球温暖化ガスCO ₂ 排出量原単位 (t-CO ₂ /億円)の低減	売上高原単位 54.57t-CO ₂ /億円	53.57t-CO ₂ /億円(※)	
環境関連法 規制対応	5.環境リスクの見える化と対応		
	①法規制への対応	①法改正の情報収集体制の整備及び その対応	改正フロン法の対応実施
	②PCB	②国内グループ会社PCB廃棄物処分	高濃度PCB 3台、低濃度PCB 6台処分完了

(※) キッツ及び国内グループ会社(営業所は除く)

環境活動トピックス

2015年11月、長坂工場にLNGタンク(サテライト)の設置が完了し、2016年1月より稼働を開始。生産工程で使用する燃料をLPG(液化石油ガス)及びA重油からLNG(液化天然ガス)に転換を進めています。このLNGサテライト基地設置は、環境省の2015年度二酸化炭素排出抑制対策事業費等補助金の対象事業として採択されました。

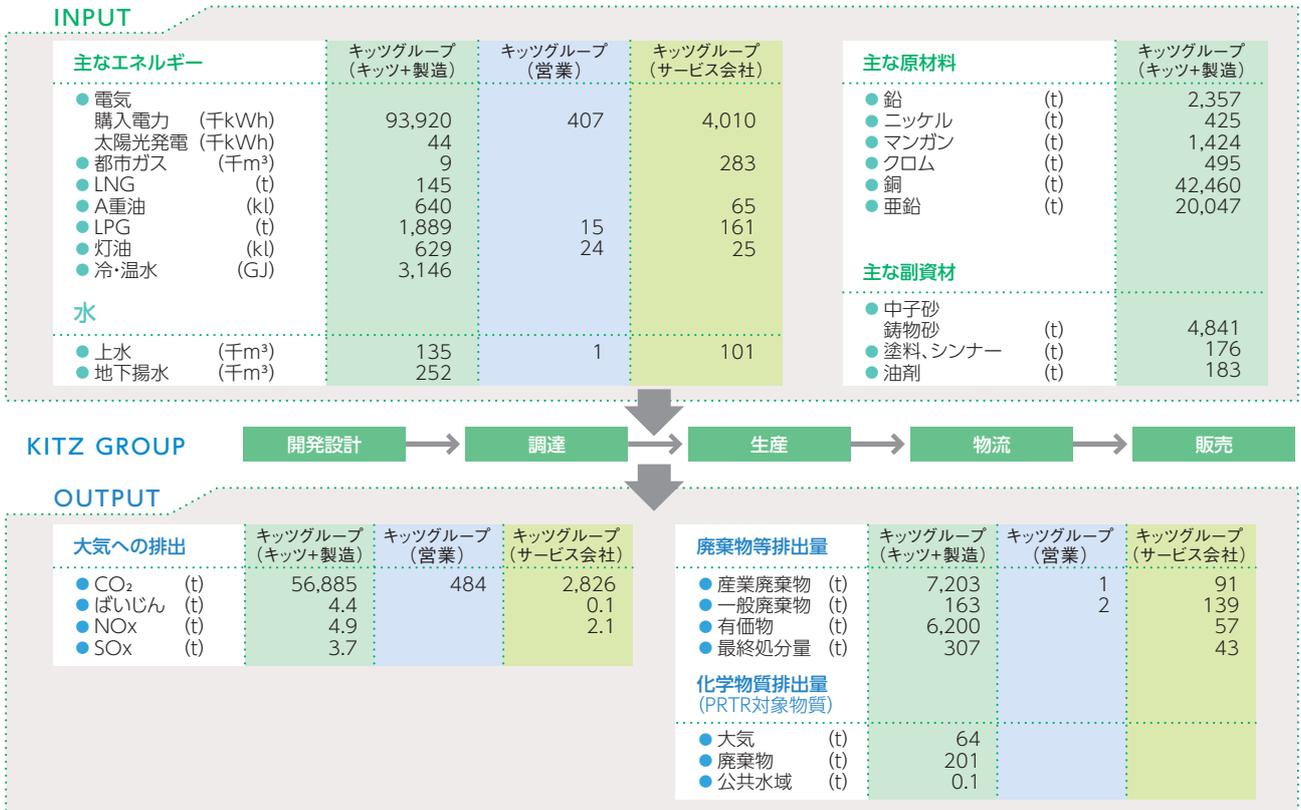
LNGへの燃料転換により、二酸化炭素の削減、大気汚染防止、環境リスクの低減、安全性の向上及びエネルギーコストの削減等の効果が見込まれています。

低温用バルブをはじめ、長坂工場のLNGサテライト基地で使用しているバルブは全てキッツ製であり、今後、新たに市場へ送り込む商品の実証試験のフィールドとなる他、お客様の見学施設としても活用していく予定です。



長坂工場LNGサテライト基地

環境負荷の全体像



環境会計

● 環境保全コスト

(単位:千円)

分類	主な取り組みの内容	設備投資額	費用額	
事業エリア内コスト		576,358	453,003	
内訳	公害防止コスト	公害防止施設・設備の導入・維持管理	284,739	144,698
	地球環境保全コスト	省エネ型設備・機器の導入	290,249	122,361
	資源循環コスト	廃棄物減量化・リサイクル、外部委託処理費	1,369	185,944
グリーン購入製品 リサイクルコスト	使用済み商品の回収・リサイクル費用	0	6,961	
管理活動コスト	ISO・環境測定・環境情報の開示	0	66,195	
研究開発コスト	鉛フリーなど環境配慮商品の開発	0	85,345	
社会活動コスト	緑化活動の推進	0	2,363	
環境損傷コスト	地下水の浄化対策	0	1,250	
その他のコスト		0	0	
合計		576,358	615,117	

項目	内容等	金額
当該期間の設備投資額の総額	環境保全に係る投資額の割合:10.1%	5,691,340
当該期間の研究開発費の総額	環境保全に係る開発費の割合:3.9%	2,182,474

集計範囲はキッツ(本社、長坂工場、伊那工場、茅野工場)、キッツメタルワークス、キッツマイクロフィルター、キッツエスシーティ、清水合金製作所、キッツエンジニアリングサービス、ホテル紅や
対象期間:対象期間は2015年度(2015年4月1日~2016年3月31日)の実績です。
対象範囲:キッツ及び国内グループ会社6社(詳細はWEBサイトをご覧ください)

● 環境保全効果

環境保全効果の分類	環境パフォーマンス指標 (単位)	前期 (2014年度)	当期 (2015年度)	前期との差
事業活動に投入する 資源に関する 環境保全効果	総エネルギー投入量(GJ)	547,090	539,654	-7,436
	PRTR対象物質の投入量(t)	4,876	4,995	119
	上水投入量(m³)	231,029	236,619	5,590
	地下揚水投入量(m³)	252,455	252,411	-44
事業活動から排出する 環境負荷及び 廃棄物に関する 環境保全効果	温室効果ガス排出量(t-CO ₂)	63,615	59,711	-3,905
	特定の化学物質排出量・移動量(t)	278	265	-12
	一般廃棄物及び産業廃棄物総排出量(t)	8,407	7,595	-812

● 環境保全対策に伴う経済効果

(単位:千円)

効果の内容	金額
収益	
主たる事業活動で生じた廃棄物のリサイクルまたは使用済み商品等のリサイクルによる事業収入	334,280
費用節減	
省エネルギーによるエネルギー費の節減	-37,393
リサイクルに伴う費用節減	210,373
廃棄物減量に伴う費用節減	9,257
合計	516,517

ステークホルダーとの対話

キッツは、株主、投資家をはじめ、お客様、ビジネスパートナー、社員、社会などのステークホルダーとの信頼関係を築くため、さまざまな活動を通して直接の対話機会を設けています。

建設的な対話によって得られた情報を経営陣に確実にフィードバックし、経営効率の改善や経営の透明性向上に向けた取り組みに反映させる仕組み作りを進めています。



株主との対話

定時株主総会では、議長である社長から、新しい中期経営計画について説明しました。招集通知については、法定期限よりも1週間程度早めて発送するとともに、発送に先立ってその内容をウェブサイトに掲載するなど、早期の情報開示に努めています。なお、2016年6月開催の定時株主総会より、英語訳をウェブサイトに掲載している他、株主様の利便性向上のため、インターネット等により議決権行使ができる体制を整えています。

個人投資家との対話

より多くの方にキッツのファン(株主)になっていただくことを目的に、個人投資家向けの説明会を年に複数回開催しています。また、ウェブサイトや株主通信によるタイムリーな情報発信の他、株主優待の充実にも努めています。

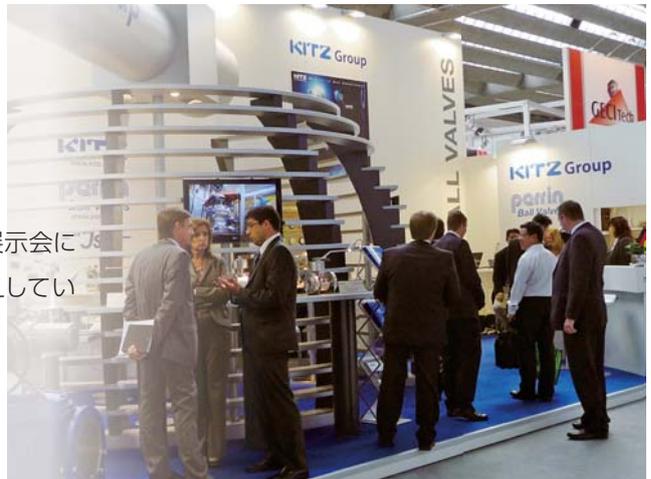


機関投資家との対話

機関投資家、アナリスト向けの決算説明会を四半期ごとに年4回開催し、社長から業績や中長期戦略について説明しています。

お客様との対話

キッツグループの商品をより広く紹介するため、国内外の展示会に積極的に出展し、ブースを訪れたお客様からの質問にお答えしています。



ビジネスパートナーとの対話

国内総合代理店社長会を年に1回開催しています。相互理解を促進し、代理店との連携をさらに深めています。



社員との対話 1

社長をはじめとする経営陣が、積極的に製造現場を訪れ、工場の社員とのコミュニケーションにより相互理解を深めています。



社員との対話 2

年2回、主要な国内事業所において社内IR説明会を実施。業績や中長期戦略について社員からの質問に丁寧に回答しています。

ステークホルダーの皆様へ

事業の概要と戦略

人材の力

キッツグループのESG

データ編

社会貢献活動

キッツは、地域振興(地域貢献)、環境保全、社会・国際貢献及び文化振興を活動分野としてさまざまな社会貢献活動に取り組んでいます。

地域振興(地域貢献)／環境保全



九十九里海岸保安林の再生活動

「特定非営利活動法人 森のライフスタイル研究所」と協働し、東日本大震災の津波により被害を受けた千葉県山武市・蓮沼殿下海岸(九十九里海岸)の保安林を再生する活動を行っています。



里山再生～オオムラサキの森づくり

長坂工場が所在する山梨県北杜市のシンボル 国蝶「オオムラサキ」が棲める里山の再生を目指し、「特定非営利活動法人 自然とオオムラサキに親しむ会」が主催する植樹活動に参加しています。



茅野工場を災害時の避難所として提供

長野県茅野市と「災害時における避難者支援に関する協定」を締結しています。自然災害の発生時には、茅野工場の社員食堂を市民の皆様の一時的な避難所として提供します。

社会・国際貢献



日本障害者パラアルペンスキーチームを支援

オフィシャルスポンサーとして日本障害者スキー連盟 パラアルペンスキーチームを応援しています。パラリンピックやワールドカップなど世界の大会で活躍できるよう選手を育成し、また、スキーを通して心身ともに自らの障がいを克服し社会参加ができることを目的としています。

TABLE FOR TWOプログラムを導入

開発途上国の飢餓と、先進国の肥満や生活習慣病の解消に同時に取り組む活動を社員食堂に導入しています。ヘルシーメニューを社員が食べることで、その価格に含まれる1食につき20円の寄付金が、アフリカの開発途上国の学校給食事業の支援に役立てられています。なお、2015年7月、「特定非営利活動法人 TABLE FOR TWO International」より、「ゴールドサポーター」として感謝状をいただきました。

写真提供:TABLE FOR TWO



文化振興



北澤美術館の支援

公益財団法人北澤美術館の活動を支援しています。北澤美術館では、19世紀末フランスのアール・ヌーヴォー期の世界第一級のガラス工芸品と現代日本画を中心に優れた作品を常時展示しており、国内外を問わず高い評価をいただいています。

主要財務データ

	2006年3月期	2007年3月期	2008年3月期	2009年3月期
会計年度				
売上高合計	107,631	149,512	149,274	127,095
国内	89,031	120,580	119,654	100,001
海外	18,599	28,932	29,620	27,094
バルブ事業	81,261	99,284	99,118	89,627
伸銅品事業	18,360	41,895	40,886	28,247
その他	8,009	8,332	9,269	9,220
営業利益	9,673	11,342	11,615	7,188
経常利益	9,132	10,652	10,525	6,475
親会社株主に帰属する当期純利益	8,070	9,973	6,290	3,396
営業活動によるキャッシュ・フロー	11,913	4,156	11,949	11,101
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 4,709	△ 4,245	△ 3,288	△ 3,945
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 6,096	△ 1,272	△ 8,362	△ 1,470

会計年度末				
流動資産	45,747	57,225	55,432	51,030
固定資産	55,593	56,882	53,877	50,071
資産合計	101,340	114,107	109,310	101,101
流動負債	35,552	28,783	29,038	27,712
固定負債	23,550	32,713	26,933	22,476
負債合計	59,103	61,496	55,972	50,189
純資産合計	41,382	52,611	53,337	50,912
有利子負債	41,869	41,513	36,247	35,860
期末株価(円)	1,128	1,070	591	299

1株当たり情報				
EPS(1株当たり当期純利益)	70.04	86.87	54.52	30.02
BPS(1株当たり純資産)	362.02	447.33	463.16	442.44
1株当たり配当金	14.00	15.00	15.00	9.00

財務比率(%)				
売上高営業利益率	9.0	7.6	7.8	5.7
ROE(自己資本当期純利益率)	21.9	21.4	12.1	6.6
ROA(総資産経常利益率)	9.3	9.9	9.4	6.2
自己資本比率	40.8	45.3	47.9	49.5
配当性向	20.0	17.3	27.5	30.0
総還元性向	20.0	17.3	53.2	30.0

※本冊子中の2015年3月期の配当性向及び総還元性向は、子会社株式の譲渡に係る利益を控除して算出しています。

2010年3月期	2011年3月期	2012年3月期	2013年3月期	2014年3月期	2015年3月期	2016年3月期
(単位：百万円)						
96,592	106,059	108,446	111,275	117,355	117,036	117,278
76,403	82,120	82,974	81,509	84,970	81,983	80,127
20,188	23,938	25,472	29,765	32,384	35,052	37,151
70,611	76,098	78,976	84,472	87,888	90,152	93,579
16,218	20,230	20,065	17,948	20,953	21,021	20,557
9,762	9,729	9,404	8,855	8,514	5,863	3,141
6,976	6,341	4,638	6,558	6,470	6,886	7,245
6,248	5,929	4,388	6,521	6,501	7,581	7,300
3,079	3,063	2,480	4,039	3,564	6,881	4,915
13,285	5,818	2,217	7,885	4,667	8,923	9,592
△ 4,525	△ 2,907	△ 2,508	△ 4,519	△ 3,546	△ 1,010	△ 9,763
△ 9,291	375	△ 6,638	△ 3,213	66	△ 3,706	796
(単位：百万円)						
47,421	52,036	47,247	49,956	55,866	63,884	63,501
50,112	48,101	47,734	50,016	51,717	51,905	55,920
97,533	100,138	94,981	99,972	107,583	115,790	119,422
18,070	26,521	20,182	21,149	20,703	25,740	19,040
25,616	20,184	20,309	18,603	20,101	14,556	24,284
43,686	46,705	40,491	39,752	40,805	40,296	43,325
53,847	53,433	54,489	60,219	66,777	75,493	76,096
27,555	30,165	24,290	22,319	23,728	21,426	25,008
545	400	360	472	505	594	487
(単位：円)						
27.23	27.36	22.71	36.98	32.63	63.22	45.50
468.31	480.88	490.65	542.41	601.56	686.47	700.17
7.00	7.00	7.50	9.50	10.00	13.00	13.00
7.2	6.0	4.3	5.9	5.5	5.9	6.2
6.0	5.8	4.7	7.2	5.7	9.8	6.6
6.3	6.0	4.5	6.7	6.3	6.8	6.2
54.3	52.5	56.4	59.3	61.1	64.2	62.9
25.7	25.6	33.0	25.7	30.6	27.8	28.6
25.7	74.1	33.0	25.7	30.6	37.4	38.8

ステークホルダーの皆様へ

事業の概要と戦略

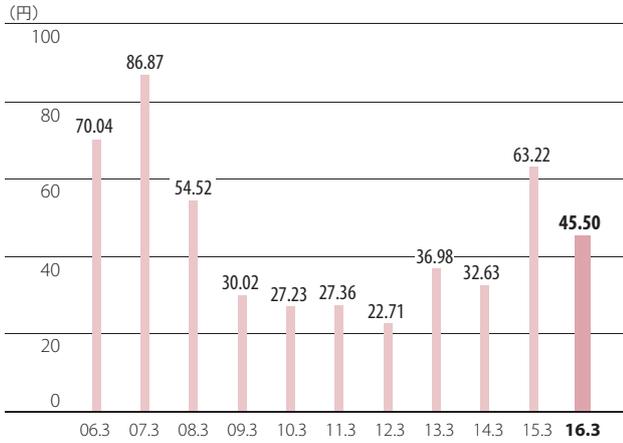
人財の力

キックグループのESG

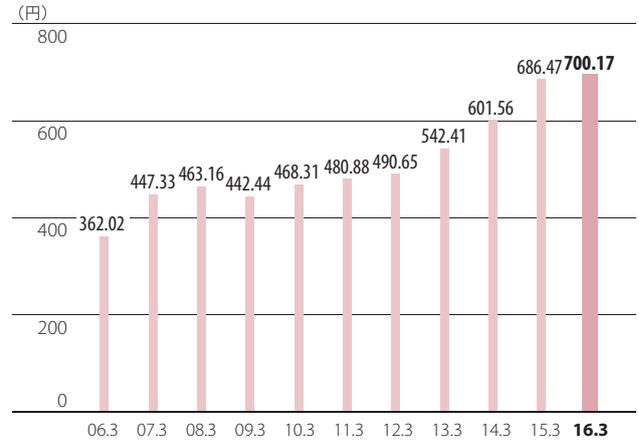
データ編

主要財務データ

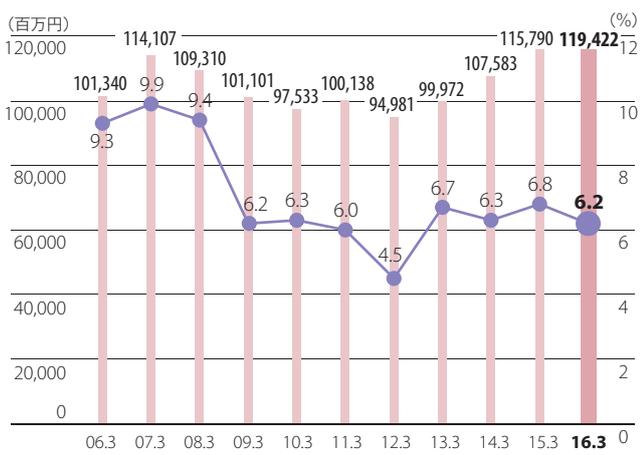
● EPS (1株当たり当期純利益)



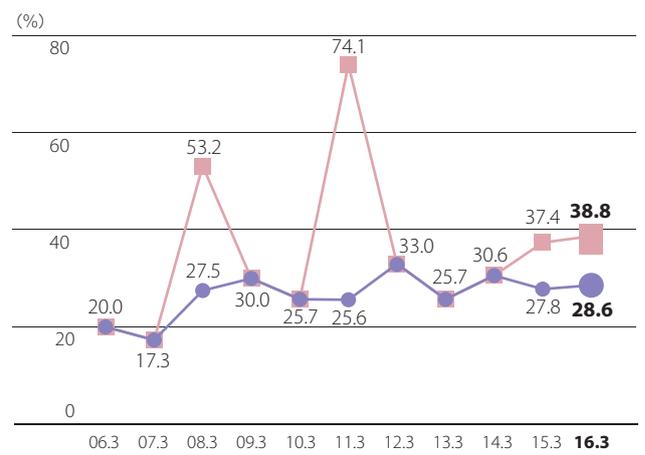
● BPS (1株当たり純資産)



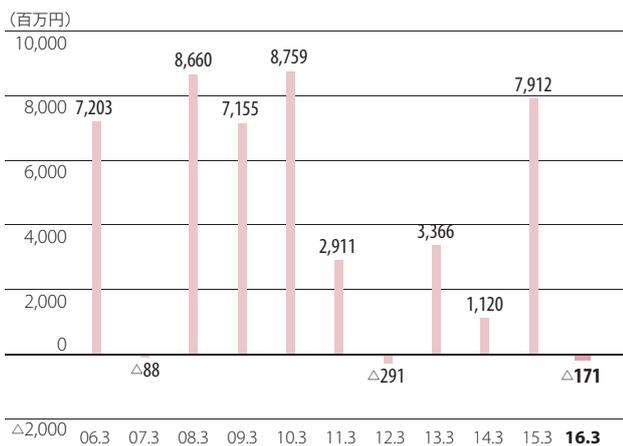
● 総資産／ROA (総資産経常利益率)



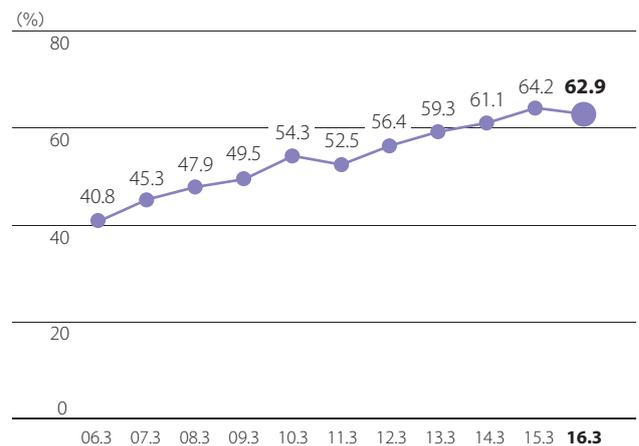
● 配当性向／総還元性向



● フリーキャッシュ・フロー



● 自己資本比率



連結貸借対照表

(単位：百万円)

	2014年3月期	2015年3月期	2016年3月期
資産の部			
流動資産			
現金及び預金	8,807	14,036	14,649
受取手形及び売掛金	20,799	21,417	18,832
電子記録債権	4,697	5,044	6,657
商品及び製品	7,976	9,342	9,291
仕掛品	4,146	4,296	4,532
原材料及び貯蔵品	6,930	7,245	7,088
繰延税金資産	1,072	1,160	1,074
その他	1,467	1,370	1,442
貸倒引当金	△30	△29	△68
流動資産合計	55,866	63,884	63,501
固定資産			
有形固定資産			
建物及び構築物	12,840	11,180	12,090
機械装置及び運搬具	7,614	8,300	9,608
工具、器具及び備品	5,011	5,127	5,222
土地	10,825	10,944	11,063
建設仮勘定	341	827	570
その他	202	237	233
有形固定資産合計	36,835	36,617	38,788
無形固定資産			
のれん	1,192	1,459	2,396
その他	2,122	2,235	3,149
無形固定資産合計	3,315	3,695	5,545
投資その他の資産			
投資有価証券	7,271	8,887	8,505
退職給付に係る資産	177	99	99
繰延税金資産	252	125	101
その他	4,208	2,485	2,884
貸倒引当金	△342	△5	△4
投資その他の資産合計	11,566	11,593	11,586
固定資産合計	51,717	51,905	55,920
資産合計	107,583	115,790	119,422

(単位：百万円)

	2014年3月期	2015年3月期	2016年3月期
負債の部			
流動負債			
買掛金	5,585	6,606	6,405
1年内償還予定の社債	1,202	6,630	799
短期借入金	3,351	1,658	2,025
1年内返済予定の長期借入金	3,247	2,942	2,788
未払法人税等	1,400	1,711	864
未払消費税等	194	515	280
賞与引当金	1,807	1,772	1,697
役員賞与引当金	138	159	169
その他	3,776	3,745	4,009
流動負債合計	20,703	25,740	19,040
固定負債			
社債	8,310	1,680	12,680
長期借入金	7,617	8,515	6,714
繰延税金負債	1,022	1,454	1,477
役員退職慰労引当金	316	309	282
退職給付に係る負債	394	295	344
資産除去債務	450	463	424
その他	1,990	1,837	2,360
固定負債合計	20,101	14,556	24,284
負債合計	40,805	40,296	43,325
純資産の部			
株主資本			
資本金	21,207	21,207	21,207
資本剰余金	9,430	9,430	5,743
利益剰余金	36,147	41,618	45,118
自己株式	△3,919	△4,407	△1,193
株主資本合計	62,865	67,849	70,875
その他の包括利益累計額			
その他有価証券評価差額金	2,134	3,321	2,745
為替換算調整勘定	516	2,811	1,220
退職給付に係る調整累計額	185	306	228
その他の包括利益累計額合計	2,836	6,439	4,194
非支配株主持分	1,075	1,204	1,027
純資産合計	66,777	75,493	76,096
負債純資産合計	107,583	115,790	119,422

ステークホルダーの皆様へ

事業の概要と戦略

人財の力

キックグループのESG

データ編

連結損益計算書

(単位：百万円)

	2014年3月期	2015年3月期	2016年3月期
売上高	117,355	117,036	117,278
売上原価	90,379	88,662	87,356
売上総利益	26,976	28,374	29,922
販売費及び一般管理費	20,505	21,487	22,676
営業利益	6,470	6,886	7,245
営業外収益			
受取利息	20	25	39
受取配当金	147	155	179
保険収入	132	177	131
受取和解金	—	259	—
為替差益	164	401	82
雑益	270	371	458
営業外収益合計	734	1,389	891
営業外費用			
支払利息	269	233	219
売上割引	314	330	386
手形売却損	24	24	23
雑損失	94	107	206
営業外費用合計	703	695	836
経常利益	6,501	7,581	7,300
特別利益			
有形固定資産売却益	10	34	85
投資有価証券売却益	—	—	75
関係会社株式売却益	—	2,156	—
事業譲渡益	—	—	170
その他	146	0	6
特別利益合計	157	2,191	338
特別損失			
有形固定資産売却及び除却損	79	71	119
減損損失	46	167	—
その他	6	14	31
特別損失合計	132	253	151
税金等調整前当期純利益	6,526	9,519	7,488
法人税、住民税及び事業税	1,911	2,589	2,198
過年度法人税等	716	—	—
法人税等調整額	277	△24	284
法人税等合計	2,906	2,564	2,483
当期純利益	3,619	6,954	5,005
非支配株主に帰属する当期純利益	55	73	90
親会社株主に帰属する当期純利益	3,564	6,881	4,915

連結包括利益計算書

(単位：百万円)

	2014年3月期	2015年3月期	2016年3月期
当期純利益	3,619	6,954	5,005
その他の包括利益			
その他有価証券評価差額金	436	1,186	△576
為替換算調整勘定	3,421	2,362	△1,639
退職給付に係る調整額	—	120	△77
その他の包括利益合計	3,858	3,670	△2,293
包括利益	7,477	10,624	2,712
(内訳)			
親会社株主に係る包括利益	7,366	10,484	2,670
非支配株主に係る包括利益	110	140	41

連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	2014年3月期	2015年3月期	2016年3月期
営業活動によるキャッシュ・フロー			
税金等調整前当期純利益	6,526	9,519	7,488
減価償却費	3,462	3,639	4,019
のれん償却額	211	215	327
為替差損益(△は益)	△68	△96	79
投資有価証券評価損益(△は益)	0	0	0
貸倒引当金の増減額(△は減少)	△3	△2	12
賞与引当金の増減額(△は減少)	137	14	△66
退職給付引当金の増減額(△は減少)	△426	-	-
退職給付に係る負債の増減額(△は減少)	402	△60	△60
役員退職慰労引当金の増減額(△は減少)	11	18	△111
役員賞与引当金の増減額(△は減少)	△43	18	11
受取利息及び受取配当金	△167	△180	△219
支払利息	269	233	219
有形固定資産売却・除却損益(△は益)	68	37	33
減損損失	46	167	-
関係会社株式売却損益(△は益)	-	△2,156	-
事業譲渡損益(△は益)	-	-	△170
売上債権の増減額(△は増加)	△546	△206	835
たな卸資産の増減額(△は増加)	△401	△782	710
その他の流動資産の増減額(△は増加)	△186	△32	△28
仕入債務の増減額(△は減少)	△452	352	△167
その他の流動負債の増減額(△は減少)	△866	493	△62
その他	△239	△40	△149
小計	7,731	11,152	12,701
利息及び配当金の受取額	168	178	212
利息の支払額	△278	△235	△217
法人税等の支払額	△2,955	△2,173	△3,105
営業活動によるキャッシュ・フロー	4,667	8,923	9,592
投資活動によるキャッシュ・フロー			
有形固定資産の取得による支出	△3,404	△3,489	△4,343
有形固定資産の売却による収入	326	37	222
無形固定資産の取得による支出	△649	△705	△1,125
投資有価証券の取得による支出	△214	△22	△470
長期貸付金の回収による収入	54	0	1
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の売却による収入	-	3,890	-
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出	-	△649	△3,732
事業譲渡による収入	-	-	170
その他	341	△73	△485
投資活動によるキャッシュ・フロー	△3,546	△1,010	△9,763
財務活動によるキャッシュ・フロー			
短期借入金の純増減額(△は減少)	817	△1,715	418
長期借入れによる収入	4,665	4,460	900
長期借入金の返済による支出	△3,745	△3,425	△3,219
社債の発行による収入	1,289	-	11,520
社債の償還による支出	△1,798	△1,202	△6,630
自己株式の売却による収入	0	0	0
自己株式の取得による支出	△1	△488	△510
配当金の支払額	△1,092	△1,201	△1,406
非支配株主への配当金の支払額	△12	△17	△22
その他	△57	△116	△252
財務活動によるキャッシュ・フロー	66	△3,706	796
現金及び現金同等物に係る換算差額	694	445	△149
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	1,881	4,651	475
現金及び現金同等物の期首残高	6,042	7,923	12,575
現金及び現金同等物の期末残高	7,923	12,575	13,050

ステークホルダーの皆様へ

事業の概要と戦略

人財の力

キックグループのESG

データ編

グループネットワーク

国内ネットワーク

株式会社キッツ

本 社

〒261-8577
千葉県千葉市美浜区中瀬1-10-1
TEL: (043)299-0111(大代表)



販売拠点

北海道支店

北海道営業所
〒065-0014
北海道札幌市東区北十四条東12-1-25
TEL: (011)733-2225

東北支店

東北営業所
〒980-0811
宮城県仙台市青葉区一番町2-7-17
朝日生命仙台一番町ビル
TEL: (022)224-5335

北関東支店

北関東営業所
〒331-0812
埼玉県さいたま市北区宮原町3-306-1
第2坂本ビル
TEL: (048)651-5260

新潟営業所

〒950-0912
新潟県新潟市中央区南笹口1-1-54
日生南笹口ビル
TEL: (025)243-3122

東京支社

東京第一営業所
〒103-0027
東京都中央区日本橋3-10-5
オンワードパークビルディング
TEL: (03)6836-1501

東京第二営業所
〒103-0027
東京都中央区日本橋3-10-5
オンワードパークビルディング
TEL: (03)6836-1501

千葉営業所
〒261-8577
千葉県千葉市美浜区中瀬1-10-1
TEL: (043)299-1706

横浜営業所
〒231-0033
神奈川県横浜市中区長者町5-85
三共横浜ビル
TEL: (045)253-1095

空調計装営業所
〒103-0027
東京都中央区日本橋3-10-5
オンワードパークビルディング
TEL: (03)6836-1502

東京営業推進グループ
〒103-0027
東京都中央区日本橋3-10-5
オンワードパークビルディング
TEL: (03)6836-1503

特需グループ
〒103-0027
東京都中央区日本橋3-10-5
オンワードパークビルディング
TEL: (03)6836-1501

中部支社

名古屋第一営業所
〒451-0045
愛知県名古屋市西区名駅3-9-37
合人社名駅3ビル
TEL: (052)562-1541

名古屋第二営業所
〒451-0045
愛知県名古屋市西区名駅3-9-37
合人社名駅3ビル
TEL: (052)562-1541

東海営業所
〒420-0034
静岡県静岡市葵区常磐町2-13-1
住友生命静岡常磐町ビル
TEL: (054)273-7337

北陸営業所
〒939-8211
富山県富山市二口町4-7-14 S・Fビル
TEL: (076)492-4685

甲信営業所
〒391-0012
長野県茅野市金沢5125
キッツ茅野工場内
TEL: (0266)71-1441

大阪支社

大阪第一営業所
〒550-0013
大阪府大阪市西区新町 1-34-15
大阪グレンチェックビル
TEL: (06)6541-1178

大阪第二営業所
〒550-0013
大阪府大阪市西区新町 1-34-15
大阪グレンチェックビル
TEL: (06)6533-1715

建築住設グループ
〒550-0013
大阪府大阪市西区新町 1-34-15
大阪グレンチェックビル
TEL: (06)6541-1357

空調計装営業所
〒550-0013
大阪府大阪市西区新町 1-34-15
大阪グレンチェックビル
TEL: (06)6533-0350

中国支社

広島営業所
〒730-0032
広島県広島市中区立町2-27
NBF広島立町ビル
TEL: (082)248-5903

岡山営業所
〒700-0903
岡山県岡山市北区幸町8-29
三井生命岡山ビル
TEL: (086)226-1607

九州支店

九州営業所
〒812-0007
福岡県福岡市博多区東比恵3-4-2
Z・S福岡ビル
TEL: (092)431-7877

プロジェクト統括部

プロジェクト第一営業所
〒261-8577
千葉県千葉市美浜区中瀬1-10-1
TEL: (043)299-1719

プロジェクト第二営業所
〒261-8577
千葉県千葉市美浜区中瀬1-10-1
TEL: (043)299-1719

プロジェクト第三営業所
〒550-0013
大阪府大阪市西区新町 1-34-15
大阪グレンチェックビル
TEL: (06)7636-1060

調節弁営業所
〒261-8577
千葉県千葉市美浜区中瀬1-10-1
TEL: (043)299-1773

給装営業部

給装第一営業所
〒261-8577
千葉県千葉市美浜区中瀬1-10-1
TEL: (043)299-1760

東北給装事務所
〒980-0811
宮城県仙台市青葉区一番町2-7-17
朝日生命仙台一番町ビル
TEL: (022)224-5335

北関東事務所
〒331-0812
埼玉県さいたま市北区宮原町3-306-1
第2坂本ビル
TEL: (048)651-5260

横浜事務所
〒231-0033
神奈川県横浜市中区長者町5-85
三共横浜ビル
TEL: (045)253-1095

西東京事務所
〒190-0022
東京都立川市錦町2-3-28
アルプ立川ビル
TEL: (042)595-9241

関西給装営業所
〒550-0013
大阪府大阪市西区新町 1-34-15
大阪グレンチェックビル
TEL: (06)7636-1061

海外業務部

〒261-8577
千葉県千葉市美浜区中瀬1-10-1
TEL: (043)299-1730

プロダクトマネジメントセンター

CLESTEC事業推進部
〒261-8577
千葉県千葉市美浜区中瀬1-10-1
TEL: (043)299-1765

生産拠点・研修所

工場

長坂工場
〒408-8515
山梨県北杜市長坂町長坂上条2040
TEL: (0551)20-4100



伊那工場
〒399-4496
長野県伊那市東春近7130
TEL: (0265)78-1111



茅野工場
〒391-0012
長野県茅野市金沢5125
TEL: (0266)82-0170



研修所

キット研修センター
〒408-0041
山梨県北杜市小淵沢町上笹尾篠原
3332-1239
TEL: (0551)36-3971

キットグループ

東洋バルヴ株式会社
〒103-0027
東京都中央区日本橋3-10-5
オンワードパークビルディング
TEL: (03)6262-1652
(各種バルブの仕入・販売)

株式会社清水合金製作所
〒522-0027
滋賀県彦根市東沼波町928
TEL: (0749)23-3131
(水道用バルブの製造・販売)



株式会社キットエスシーティー
〒143-0016
東京都大田区大森北1-5-1
大森駅東口ビル
TEL: (03)6404-2171
(半導体製造設備用配管部材の製造・販売)



ステークホルダーの皆様へ

事業の概要と戦略

人材の力

キットグループのESG

データ編

三吉バルブ株式会社
〒261-8577
千葉県千葉市美浜区中瀬1-10-1
TEL: (043)299-1734
(建築設備用及び冷凍機用バルブの仕入・販売)

ワイケイブイ株式会社
〒261-8577
千葉県千葉市美浜区中瀬1-10-1
TEL: (043)299-1773
(自動調節弁及びその関連商品の製造・販売・サービス)

株式会社キッツエンジニアリングサービス
〒275-0024
千葉県習志野市茜浜1-7-59
TEL: (047)452-0585
(バルブのメンテナンスサービス)

株式会社キッツマイクロフィルター
〒392-0012
長野県諏訪市四賀2983
TEL: (0266)52-0002
(ろ過用機器及びその付属品の製造・販売)



株式会社キッツメタルワークス
〒391-8555
長野県茅野市宮川小早川7377
TEL: (0266)79-3030
(伸銅品及びその加工品の製造・販売)



北東技研工業株式会社
〒408-0112
山梨県北杜市須玉町若神子4601
TEL: (0551)42-5151
(金属加工品の製造・販売)



株式会社ホテル紅や
〒392-8577
長野県諏訪市湖岸通り2-7-21
TEL: (0266)57-1111
(ホテル及びレストランの経営)



キッツは、社会貢献活動の一環として
公益財団法人北澤美術館の活動を
支援しています。

公益財団法人北澤美術館
〒392-0027
長野県諏訪市湖岸通り1-13-28
TEL: (0266)58-6000

海外ネットワーク

株式会社キッツ 駐在員事務所

韓国

韓国駐在員事務所
KITZ Corporation
(Korea Liaison Office)
10th Floor, Seoul Finance Center,
136, Sejong-daero, Jung-gu, Seoul,
045-20, Korea
TEL: +82-2-6959-2450

インド

インド駐在員事務所
KITZ Corporation
(India Liaison Office)
805 Meadows, Sahar Plaza, Off
Andheri Kurla Road, Andheri East,
Mumbai 400 059, India
TEL: +91-22-40154202

U.A.E.

ドバイ駐在員事務所
KITZ Corporation
(Dubai Liaison Office)
6EA501 Dubai Airport Free Zone,
P.O. Box 293545, Dubai-U.A.E.
TEL: +971-(0)4-701-7524

キッツグループ

アジア

KITZ Corporation of Asia Pacific Pte. Ltd.
(シンガポール)
No.22 Pioneer Crescent, #03-06
West Park BizCentral Singapore
628556
TEL: +65-6339-0350
(各種バルブの仕入・販売)

KITZ Valve & Actuation Singapore Pte. Ltd.
(シンガポール)
No.22 Pioneer Crescent, #03-06
West Park BizCentral Singapore
628556
TEL: +65-6861-1833
(各種バルブの仕入・販売・メンテナンス)

KITZ Valve & Actuation (Thailand) Co., Ltd.
(タイ)
388 Exchange Tower, 17th Floor,
Unit 1701-1, Sukhumvit Road,
Klongtoey Sub-district, Klongtoey
District, Bangkok 10110, Thailand
TEL: +66-2-663-4700
(各種バルブの仕入・販売)

KITZ (Thailand) Ltd. (タイ)
 426 Moo17 Bangna-Trad Rd.,
 T.Bangsaothong A. Bangsaothong,
 Samutprakarn 10540, Thailand
 TEL: +66-2-315-3129~31
 (青銅・黄銅製バルブ及びバタフライバルブ
 の製造・販売)



台湾北澤股份有限公司
(KITZ Corporation of Taiwan) (台湾)
 台湾高雄市楠梓加工出口区東5街26号
 TEL: +886-7-361-1235
 (ステンレス鋼・鋳鋼製バルブ及び継手の
 製造・販売)



北澤精密機械(昆山)有限公司
(KITZ Corporation of Kunshan) (中国)
 中華人民共和国江蘇省昆山市
 經濟技術開發区太湖南路15号
 TEL: +86-512-5763-8181
 (ステンレス鋼製バルブの製造・販売)



北澤閥門(昆山)有限公司
(KITZ Corporation of Jiangsu Kunshan)
 (中国)
 中華人民共和国江蘇省昆山綜合保稅区
 B区中央大道188号
 TEL: +86-512-5771-6078
 (鋳鋼製バルブの製造・販売)



上海開滋国際貿易有限公司
(KITZ Corporation of Shanghai)
 (中国)
 中華人民共和国上海市普陀区中山北路
 3000号長城大厦1701-1704室
 TEL: +86-21-6439-1249
 (各種バルブの仕入・販売)

連雲港北澤精密閥門有限公司
(KITZ Corporation of Lianyungang)
 (中国)
 中華人民共和国江蘇省連雲港經濟技術
 開發区雲陽路16号
 TEL: +86-518-8236-6061
 (鋳鋼製バルブの製造・販売)



北澤半導体閥門(昆山)有限公司
(KITZ SCT Corporation of Kunshan)
 (中国)
 中華人民共和国江蘇省昆山市出口加工
 区A区第三大道8-3
 TEL: +86-512-5735-0700
 (半導体製造設備用配管部材の製造・販売)



Micro Pneumatics Pvt. Ltd.
 (インド)
 Plot No. 133-134, Vasai Municipal
 Industrial Area, Umela Phata, Papdy,
 Vasai Road (West) - 401 207. Dist
 - Thane, Maharashtra, India
 TEL: +91- 250-2320458
 (工業(薬品、食品、石油)用自動ボールバ
 ルブ及びバタフライバルブの製造・販売)



米州

KITZ Corporation of America (アメリカ)
 10750 Corporate Drive, Stafford,
 Texas 77477, U.S.A.
 TEL: +1-281-491-7333
 (各種バルブの仕入・販売)

KITZ SCT America Corporation (アメリカ)
 1183 Bordeaux Drive, Suite 15
 Sunnyvale, California 94089, U.S.A.
 TEL: +1-408-747-5546
 (半導体製造設備用配管部材の仕入・販売)

Metalúrgica Golden Art's Ltda. (ブラジル)
 Rua Getúlio Vargas, 496, Bairro
 Renovação, Veranópolis (RS), Brazil
 TEL: +55-54-3441-8900
 (工業用ボールバルブの製造・販売)



欧州

KITZ Corporation of Europe, S.A. (スペイン)
 Ramon Vinas 8, 08930 Sant Adria de
 Besos Barcelona, Spain
 TEL: +34-9346-21408
 (鋳鋼製・ステンレス鋼製ボールバルブの
 製造・販売)



KITZ Europe GmbH (ドイツ)
 Siemensstraße 1, D-61130 Nidderau,
 Germany
 TEL: +49-0-6187-928-100
 (欧州全域のマーケティング・販売)

Perrin GmbH (ドイツ)
 Siemensstraße 1, D-61130 Nidderau,
 Germany
 TEL: +49-0-6187-928-0
 (メタルシートボールバルブ等の製造・販売)



主要工場許認可一覧

事務所	認定種目	認定機関	事務所	認定種目	
(株)キッツ 長坂工場	ISO9001	LRQA	(株)清水合金製作所	ISO9001 / ISO14001 日本水道協会検査工場 JIS製品認証 (JIS B 2062水道用仕切弁)	
	ISO14001	ビューローベリタス ジャパン株式会社		(株)キッツエスシーティ	ISO9001 / ISO14001 高圧ガス保安法大臣認定制度認定試験者認定事業所
	高圧ガス保安法大臣認定制度 認定試験者認定事業所	高圧ガス保安協会 (経済産業省)	(株)キッツマイクロフィルター		ISO9001 / ISO14001 日本水道協会 品質認証センター 認証登録品工場
	日本水道協会検査工場(第2種)	日本水道協会		KITZ (Thailand) Ltd.(タイ)	ISO9001 / ISO14001 JIS製品認証 (JIS B 2011 青銅弁) 日本水道協会 品質認証センター 認証登録品工場 PED/CEマーク表示製品製造工場 CSA(Canadian Standard Association) FM(Factory Mutual) UL(Underwriters Laboratories) Australian Standard NSF
	日本水道協会 品質認証センター 認証登録品工場	日本水道協会	台湾北澤股份有限公司(台湾)		ISO9001 / ISO14001 PED/CEマーク表示製品製造工場 UL(Underwriters Laboratories) AD2000-Merkblatt HP0 中国压力容器製造認定(TS認定)
	API Specification 6D モノグラム表示許可工場	米国石油協会			北澤精密機械(昆山)有限公司 (中国)
	PED/CEマーク 表示製品製造工場	ロイドレジスター グループリミテッド	北澤閥門(昆山)有限公司 (中国)		
	AD2000-Merkblatt W0 鋳物製造認定工場	TÜV SÜD			連雲港北澤精密閥門有限 公司(中国)
	AD2000-Merkblatt HP0 压力容器製造・認定工場	TÜV SÜD	KITZ Corporation of Europe, S.A.(スペイン)		
	消防用設備等の認定	日本消防設備 安全センター			(株)Perrin GmbH(ドイツ)
ISO9001	LRQA	(株)キッツ 伊那工場			
ISO14001	ビューローベリタス ジャパン株式会社		(株)キッツ 茅野工場	ISO9001 API Specification 6D DIN/GOST認定取得 SIL III PED/CEマーク表示製品製造工場 CRN (Canadian Registration Number) Type Test Certification of Special Equipment (CHINA) Vender Registration Certificate	
高圧ガス保安法大臣認定制度 認定試験者認定事業所	高圧ガス保安協会 (経済産業省)			(株)キッツ 茅野工場	ISO9001 API Specification 6D DIN/GOST認定取得 SIL III PED/CEマーク表示製品製造工場 CRN (Canadian Registration Number) Type Test Certification of Special Equipment (CHINA) Vender Registration Certificate
日本水道協会検査工場(第3種)	日本水道協会		(株)キッツ 茅野工場		ISO9001 API Specification 6D DIN/GOST認定取得 SIL III PED/CEマーク表示製品製造工場 CRN (Canadian Registration Number) Type Test Certification of Special Equipment (CHINA) Vender Registration Certificate
日本水道協会 品質認証センター 認証登録品工場	日本水道協会			(株)キッツ 茅野工場	ISO9001 API Specification 6D DIN/GOST認定取得 SIL III PED/CEマーク表示製品製造工場 CRN (Canadian Registration Number) Type Test Certification of Special Equipment (CHINA) Vender Registration Certificate
API Specification 6D モノグラム表示許可工場	米国石油協会		(株)キッツ 茅野工場		ISO9001 API Specification 6D DIN/GOST認定取得 SIL III PED/CEマーク表示製品製造工場 CRN (Canadian Registration Number) Type Test Certification of Special Equipment (CHINA) Vender Registration Certificate
PED/CEマーク 表示製品製造工場	ロイドレジスター グループリミテッド			(株)キッツ 茅野工場	ISO9001 API Specification 6D DIN/GOST認定取得 SIL III PED/CEマーク表示製品製造工場 CRN (Canadian Registration Number) Type Test Certification of Special Equipment (CHINA) Vender Registration Certificate
JIS製品認証 (JIS B 2031 ねずみ鋳鉄弁)	日本水道協会 (経済産業省)		(株)キッツ 茅野工場		ISO9001 API Specification 6D DIN/GOST認定取得 SIL III PED/CEマーク表示製品製造工場 CRN (Canadian Registration Number) Type Test Certification of Special Equipment (CHINA) Vender Registration Certificate
消防用設備等の認定	日本消防設備 安全センター			(株)キッツ 茅野工場	ISO9001 API Specification 6D DIN/GOST認定取得 SIL III PED/CEマーク表示製品製造工場 CRN (Canadian Registration Number) Type Test Certification of Special Equipment (CHINA) Vender Registration Certificate
AD2000-Merkblatt HP0 压力容器製造・認定工場	TÜV SÜD		(株)キッツ 茅野工場		ISO9001 API Specification 6D DIN/GOST認定取得 SIL III PED/CEマーク表示製品製造工場 CRN (Canadian Registration Number) Type Test Certification of Special Equipment (CHINA) Vender Registration Certificate
ISO9001	LRQA	(株)キッツ 茅野工場		ISO9001 API Specification 6D DIN/GOST認定取得 SIL III PED/CEマーク表示製品製造工場 CRN (Canadian Registration Number) Type Test Certification of Special Equipment (CHINA) Vender Registration Certificate	
ISO14001	ビューローベリタス ジャパン株式会社		(株)キッツ 茅野工場	ISO9001 API Specification 6D DIN/GOST認定取得 SIL III PED/CEマーク表示製品製造工場 CRN (Canadian Registration Number) Type Test Certification of Special Equipment (CHINA) Vender Registration Certificate	
日本水道協会検査工場(第1種)	日本水道協会	(株)キッツ 茅野工場		ISO9001 API Specification 6D DIN/GOST認定取得 SIL III PED/CEマーク表示製品製造工場 CRN (Canadian Registration Number) Type Test Certification of Special Equipment (CHINA) Vender Registration Certificate	
JIS製品認証 (JIS B 2011 青銅弁)	日本水道協会 (経済産業省)		(株)キッツ 茅野工場	ISO9001 API Specification 6D DIN/GOST認定取得 SIL III PED/CEマーク表示製品製造工場 CRN (Canadian Registration Number) Type Test Certification of Special Equipment (CHINA) Vender Registration Certificate	
日本水道協会 品質認証センター 認証登録品工場	日本水道協会	(株)キッツ 茅野工場		ISO9001 API Specification 6D DIN/GOST認定取得 SIL III PED/CEマーク表示製品製造工場 CRN (Canadian Registration Number) Type Test Certification of Special Equipment (CHINA) Vender Registration Certificate	
消防用設備等の認定	日本消防設備安全センター (総務省消防庁)		(株)キッツ 茅野工場	ISO9001 API Specification 6D DIN/GOST認定取得 SIL III PED/CEマーク表示製品製造工場 CRN (Canadian Registration Number) Type Test Certification of Special Equipment (CHINA) Vender Registration Certificate	
消防検定	日本消防検定協会 (総務省消防庁)	(株)キッツ 茅野工場		ISO9001 API Specification 6D DIN/GOST認定取得 SIL III PED/CEマーク表示製品製造工場 CRN (Canadian Registration Number) Type Test Certification of Special Equipment (CHINA) Vender Registration Certificate	
NSF	NSF International		(株)キッツ 茅野工場	ISO9001 API Specification 6D DIN/GOST認定取得 SIL III PED/CEマーク表示製品製造工場 CRN (Canadian Registration Number) Type Test Certification of Special Equipment (CHINA) Vender Registration Certificate	

会社概要 / 株式情報

会社概要

(2016年3月31日現在)

商号	株式会社 キッツ
英文商号	KITZ CORPORATION
本社	〒261-8577 千葉県千葉市美浜区中瀬一丁目10番1(幕張新都心) TEL: (043) 299-0111(大代表)
URL	http://www.kitz.co.jp/
設立	1951年1月26日
資本金	21,207,084,670円
決算期	3月31日
上場証券取引所	東京証券取引所 市場第一部 (証券コード:6498)
社員数	1,239名(単体)
事業内容	バルブ及びその他の流体制御用機器並びにその付属品の製造・販売
取引銀行	みずほ銀行 三井住友銀行 三菱UFJ信託銀行 三菱東京UFJ銀行 八十二銀行 山梨中央銀行 千葉銀行

株式情報

(2016年3月31日現在)

発行可能株式総数	400,000,000 株
発行済株式の総数	107,215,289 株 (注)上記の株式の総数には、当社が2016年3月31日に保有する自己株式3,181,222株を含んでおりません。
株主数	11,920名
定時株主総会	6月
基準日	定時株主総会議決権 3月31日 期末配当金 3月31日 中間配当金 9月30日 その他必要がある場合は、あらかじめ公告いたします。
公告掲載方法	電子公告 ただし、やむを得ない事由により電子公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載いたします。公告掲載URL(http://www.kitz.co.jp/)
単元株式数	100株

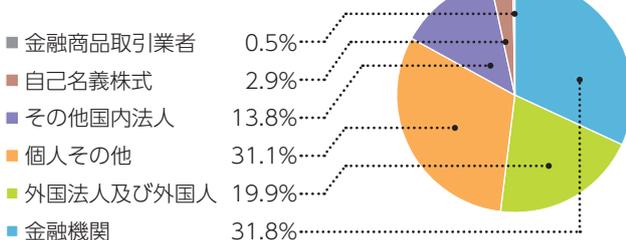
大株主

株主名	当社への出資状況	
	持株数 (千株)	持株比率 (%)
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社	10,317	9.62
CBNY-GOVERNMENT OF NORWAY	5,197	4.85
日本生命保険相互会社	4,359	4.07
北沢会持株会	3,979	3.71
公益財団法人北澤育英会	3,411	3.18
住友生命保険相互会社	3,353	3.13
キッツ取引先持株会	3,007	2.80
STATE STREET BANK AND TRUST COMPANY	2,848	2.66
株式会社みずほ銀行	2,553	2.38
株式会社三井住友銀行	2,553	2.38

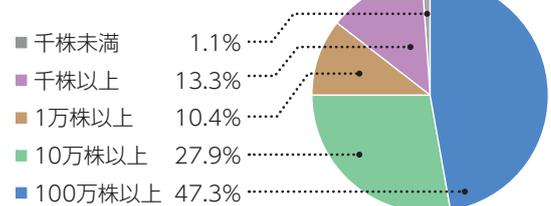
(注) 1. 当社は、2016年3月31日現在、自己株式3,181千株を保有しており、上記大株主から除外しています。
2. 上記の持株数には、信託業務に係る株式を次の通り含んでおります。
日本トラスティ・サービス信託銀行(株) 10,317千株

3. 日本生命保険(相)の持株数には、特別勘定年金口55千株を含んでおります。
4. 住友生命保険(相)の持株数には、変額口103千株及び特別勘定口100千株を含んでおります。
5. 発行済株式総数から自己株式3,181,222株を除いて計算しています。

所有者別分布



所有株数別分布



ステークホルダーの皆様へ

事業の概要と戦略

人材の力

キッツグループのESG

データ編

KITZ